

本書の構成

本書をお読みにする前に

安全にお使いいただくための注意事項や、本書の表記について説明しています。必ずお読みください。

第1章 はじめに

各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

第2章 ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかたなどを説明しています。

第3章 BIOS セットアップ

本パソコンの日時や省電力モードの設定に必要な、BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。

第4章 困ったときに

本パソコンにトラブルが発生したときなど、どうすればいいのかを説明しています。必要に応じてお読みください。

第5章 技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

目次

本書をお読みになる前に	5
安全にお使いいただくために	5
本書の表記	6
警告ラベル／注意ラベル	8

第1章 はじめに

1 各部の名称と働き	10
パソコン本体前面	10
パソコン本体背面	12
パソコン本体内部	14
マザーボード	15
2 キーボードについて	16
3 マウスについて	18
マウスの使いかた	18
4 設置	20
設置する場所について	20
フットを取り付ける	20
設置例	23
5 接続	24
ディスプレイ／キーボード／マウス／LAN ケーブルの接続	25
電源ケーブルの接続	27
6 電源を入れる	29
電源を入れるときの注意事項	29
電源の入れかた	30
7 電源を切る	31
電源を切るときの注意事項	31
電源の切りかた	31
8 リセットする	34
リセットの方法	34
9 CD について	36
取り扱い上の注意	36
CD をセットする／取り出す	37
10 フロッピーディスクについて	39
取り扱い上の注意	39
フロッピーディスクをセットする／取り出す	39
11 ハードディスクについて	41
ハードディスク取り扱い上の注意	41

第2章 ハードウェアについて

1 周辺機器を取り付ける前に	44
周辺機器とは	44
取り扱い上の注意	44
取り付け位置	46
2 本体カバーを取り外す	47
アッパーカバーを取り外す	47
3 メモリを増やす	48
メモリの取り付け場所	49
取り付けられるメモリ	49
メモリを取り付ける／取り外す	50
4 拡張カードを増設する	54
取り付けられる拡張カード	55
拡張カードを取り付ける	55

第3章 BIOS セットアップ

1 BIOS セットアップとは	60
2 BIOS セットアップの操作のしかた	61
BIOS セットアップを起動する	61
設定を変更する	62
BIOS セットアップを終了する	63
3 ご購入時の設定に戻す	64
4 メニュー詳細	65
メインメニュー	65
詳細メニュー	68
セキュリティメニュー	77
終了メニュー	78
5 BIOS のパスワード機能を使う	79
パスワードの種類	79
パスワードを設定する	79
パスワードを忘れてしまったら	80
パスワードを変更する／削除する	81
6 BIOS が表示するメッセージ一覧	82
メッセージが表示されたときは	82
メッセージ一覧	82

第4章 困ったときに

1 こんなときには	88
それでも解決できないときは	90

第5章 技術情報

1 ハードウェアのお手入れ	92
パソコン本体のお手入れ	92
キーボードのお手入れ	92
CDのお手入れ	92
マウスのお手入れ	93
フロッピーディスクドライブのお手入れ	94
2 テレビ/ラジオなどの受信障害防止について	95
3 筐体のセキュリティ	96
4 LAN 機能の診断テスト	97
5 標準仕様	98
本体仕様	98
LAN アダプタ仕様	99
サウンド仕様	99
グラフィック仕様	99
コネクタ仕様	100
6 その他の注意事項	103
廃棄について	103
USBについて (Windows98/2000/Me モデル)	103
USB キーボード (Windows98 モデル)	104
LAN アダプタの追加について	104
Wake up On LAN	104
ディスプレイをお使いになるうえでの注意	104
アナログディスプレイをお使いになるうえでの注意 (Windows2000 モデル)	104
アナログディスプレイでの画面位置の調整	105
画面の解像度の選択	105
ディスプレイの省電力対応	105
ディスプレイの接続	105
ディスプレイの交換	106
省電力機能	107
国際エネルギースタープログラムについて	107
スクロール機能 (ホイール機能) 付きマウス	107

索引	109
----	-----

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

本書には、本パソコンを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本パソコンをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本パソコンをお使いください。

また、本書および『安全上のご注意』は、本パソコンの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。


(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準 (PC-11-1988) に適合しております。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。この装置は、説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

当社は、国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの基準に適合していると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化促進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品は、コンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリ及び複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク  は、参加各国の間で統一されています。

ただし、OS (WindowsNT 等) の制限上、本製品の省エネルギー機能が使用できない場合もあります。

本パソコンには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って本パソコンを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされています。

Microsoft、Windows、MS、MS-DOS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

Celeron は、米国インテル社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。



All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2000

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。




本書の表記

警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。




 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
	参照ページや参照マニュアルを示しています。

キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:  
  ↑  ↑
```

- ↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。
- CD-ROM ドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。

```
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe
```

画面例

本書に記載されている画面は一例です。お使いのパソコンに表示される画面やファイル名などと異なる場合があります。ご了承ください。

イラスト

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、お使いのパソコンと異なる場合があります。ご了承ください。

連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

BIOS セットアップの表記

本文中の BIOS セットアップの設定手順において、各メニューやサブメニューまたは項目を、「-」（ハイフン）でつなげて記述する場合があります。

例：「メイン」の「ECC モード」の項目を「使用しない」に設定します。

↓

「メイン」-「ECC モード」：使用しない

お問い合わせ先／URL

本文中に記載されているお問い合わせ先や WWW の URL は 2000 年 10 月現在のものです。変更されている場合は、FM インフォメーションサービスへお問い合わせください（▶『修理サービス網一覧表』参照）。

カスタムメイドオプション

本文中の説明は、すべて標準仕様に基づいて記載されています。

そのため、カスタムメイドオプションを取り付けている場合、メモリ容量やハードディスク容量などの記載が異なります。ご了承ください。

製品の呼びかた

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記します。

製品名称	本書での表記
Microsoft® Windows® Millennium Edition	Windows Me
Microsoft® Windows® 98 operating system SECOND EDITION	Windows98
Microsoft® Windows® 2000 Professional	Windows2000
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0	WindowsNT
FMV-6633CL6s	本パソコンまたはパソコン本体

警告ラベル／注意ラベル

本パソコンには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

1

第 1 章

はじめに

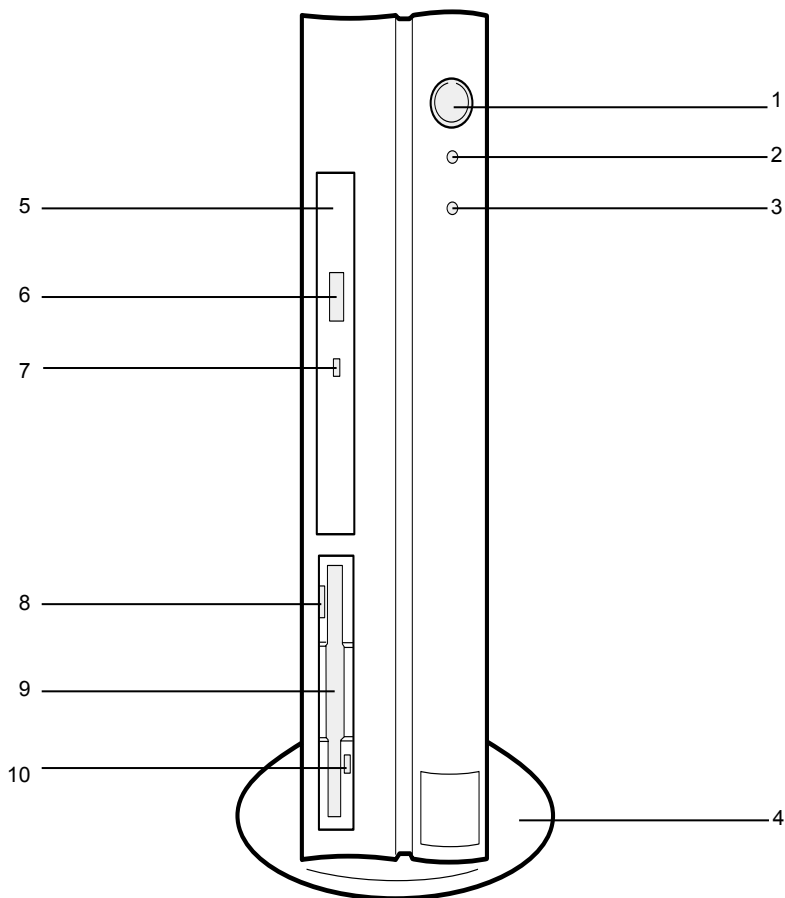
各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本パソコンをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

1	各部の名称と働き	10
2	キーボードについて	16
3	マウスについて	18
4	設置	20
5	接続	24
6	電源を入れる	29
7	電源を切る	31
8	リセットする	34
9	CDについて	36
10	フロッピーディスクについて	39
11	ハードディスクについて	41

1 各部の名称と働き

ここでは、パソコン本体、マザーボードの各部の名称と働きを説明します。

パソコン本体前面



1 電源スイッチ

パソコン本体の電源を入れるときや切るとき、スタンバイ（省電力状態）にするときに押します。

2 電源ランプ

パソコン本体に電源が入っているときに点灯します。
動作しているときは緑色に、スタンバイのときはオレンジ色に点灯します。

3 ハードディスクアクセス表示ランプ

ハードディスクにデータを書き込んだり、ハードディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

4 フット

本パソコンをお使いになるときに取り付ける台座です。
縦置きするときには、転倒防止となります。

5 CD-ROM ドライブ（CD-ROM 搭載モデル）

CD-ROM のデータやプログラムを読み出したり、音楽 CD を再生したりします。

6 EJECT ボタン（CD-ROM 搭載モデル）

CD-ROM や音楽 CD をセットするときや取り出すときに押します。パソコン本体の電源が入っているときにお使いになれます。BUSY ランプが点灯しているときは、押さないでください。

7 BUSY ランプ（CD-ROM 搭載モデル）

CD-ROM からデータを読み込んでいるときや音楽 CD を再生しているときに点灯します。

8 フロッピーディスク取り出しボタン

フロッピーディスクを取り出すときに押します。
フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは、押さないでください。

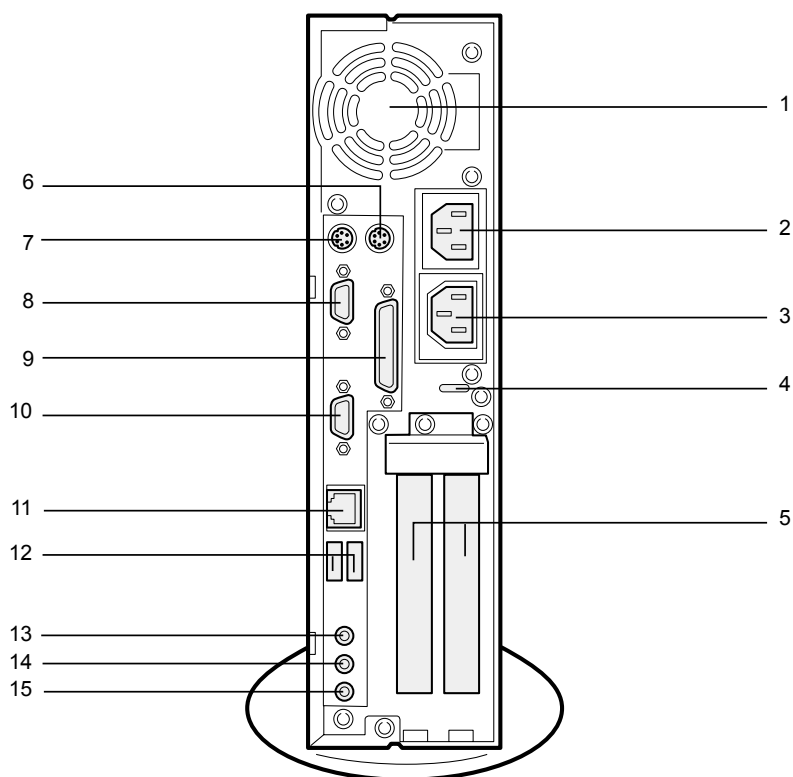
9 フロッピーディスクドライブ

フロッピーディスクをセットしてデータを書き込んだり、読み出したりします。

10 フロッピーディスクアクセス表示ランプ

フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み出したりしているときに点灯します。

パソコン本体背面



1 通風孔

パソコン本体内部の熱を外部に逃がすための開孔部です。

2 インレット

パソコン本体の電源ケーブルを接続します。

3 アウトレット

ディスプレイの電源ケーブルを接続します。

4 盗難防止用ロック

パソコン内部の装置を盗難から守るため、鍵を取り付けます。

※接続に関しては、「[筐体のセキュリティ](#)」(▶ P.96)をご覧ください。

5 拡張スロット

本パソコンの機能を拡張する各種オプションカードを取り付けます。

PCI カードを取り付けることができます。

6 マウスコネクタ

マウスを接続します。

7 キーボードコネクタ

キーボードを接続します。

8 シリアルコネクタ

RS-232C 規格に対応した機器のケーブルを接続します。

9 パラレルコネクタ

プリンタやスキャナなどのケーブルを接続します。

10 CRT コネクタ

アナログ RGB 規格のディスプレイケーブルを接続します。

11 LAN コネクタ

LAN ケーブルを接続します。

12 USB コネクタ

USB 規格の周辺機器を接続します。

※接続に関しては、「[USB について \(Windows98/2000/Me モデル\)](#)」(▶▶ P.103) をご覧ください。

13 LINE OUT 端子

サウンド出力用端子。オーディオ機器の入力端子を接続します。

スピーカを直接接続する場合は、アンプ機能内蔵のものをお使いください。

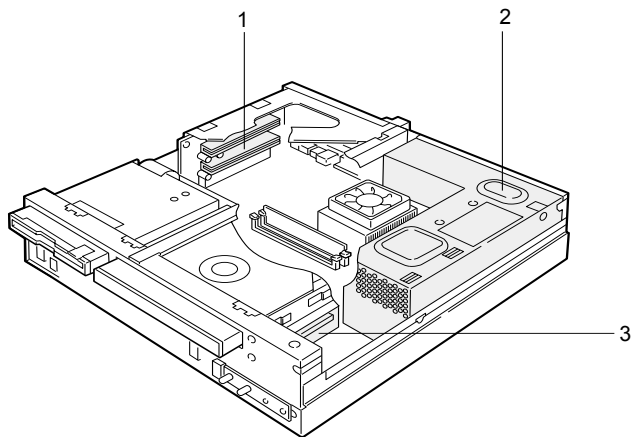
14 LINE IN 端子

サウンド入力用端子。オーディオ機器の出力端子を接続します。

15 マイク端子

市販のコンデンサマイクを接続します。

パソコン本体内部



1 拡張スロット

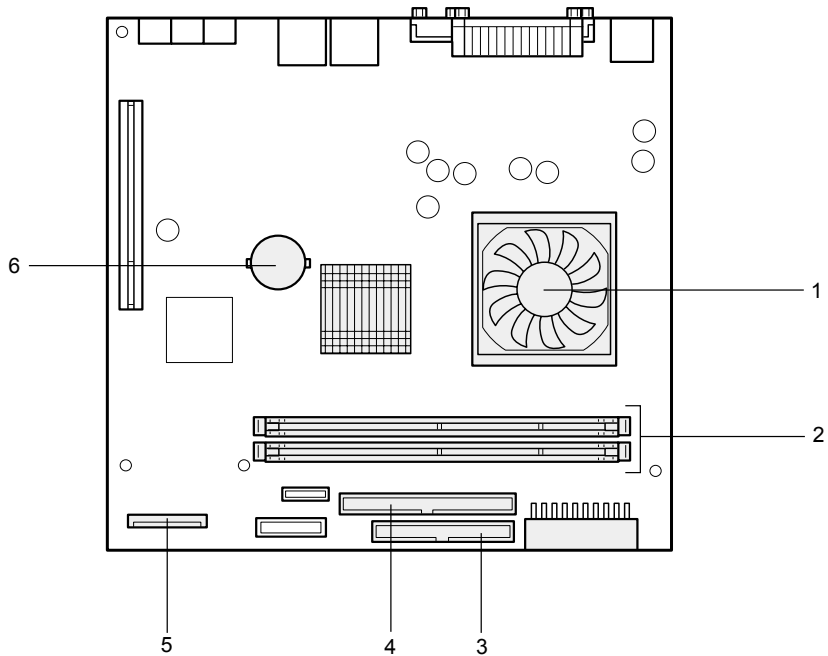
本パソコンの機能を拡張する各種オプションカードを取り付けます。
PCI カードを取り付けることができます。

2 電源ユニット

3 内蔵ハードディスク

IDE 規格のハードディスクです。

マザーボード



1 CPU

2 DIMM スロット

メモリを取り付けます。

パソコン本体の前面から見て、奥から DIMM1、DIMM2 と並んでいます。

3 プライマリ IDE コネクタ (IDE1)

標準のハードディスクが接続されています。

4 セカンダリ IDE コネクタ (IDE2)

標準の CD-ROM が接続されています。(CD-ROM 搭載モデル)。

5 フロッピーコネクタ (FDD)

6 内蔵バッテリー

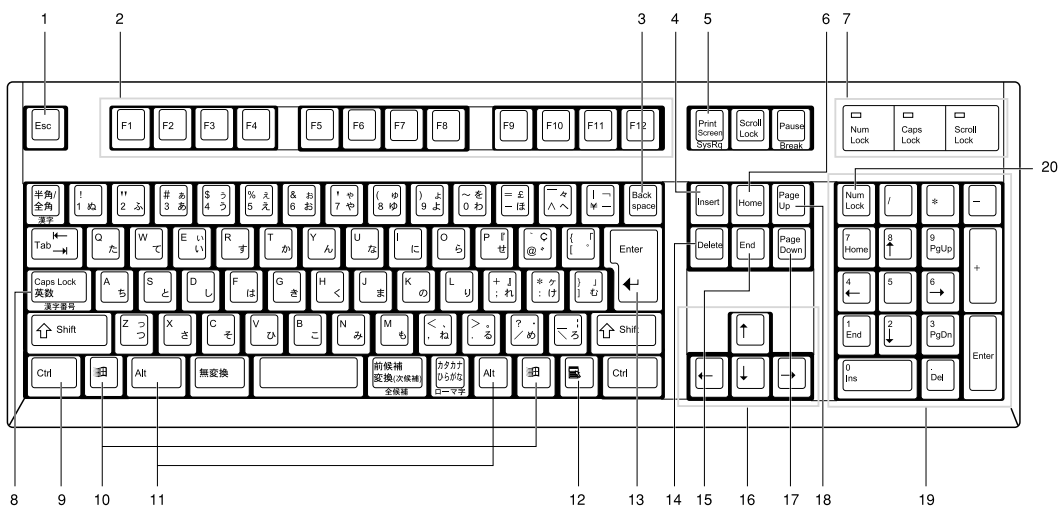
本パソコンの時計機能と BIOS セットアップで設定した各設定を保存するためのバッテリーです。標準 (1 日 8 時間) の使用状態で約 5 年間お使いになれます。

2 キーボードについて

ここでは、キーボード（109 日本語キーボード）のキーの役割を説明します。

POINT

- ▶ お使いになる OS やアプリケーションにより、キーの役割が変わることがあります。OS やアプリケーションのマニュアルをご覧ください。



1 Esc（エスケープ）キー

アプリケーションの実行中の動作を取り消します。

2 F（ファンクション）キー

アプリケーションごとにいろいろな役割が割り当てられます。

3 Back space（バックスペース）キー

カーソルを左へ移動し、文字を削除するときに押します。

4 Insert（インサート）キー

文字の挿入／上書きの切り替えをするときに押します。

5 Print Screen（プリントスクリーン）キー

画面表示をクリップボードに取り込みます。

6 Home（ホーム）キー

カーソルを行の最初や文書の最初に、一度に移動するときに押します。

7 インジケータ

【Num Lock】キー、【Shift】+【Caps Lock 英数】キー、【Scroll Lock】キーを押すと点灯し、各キーが機能する状態になります。再び押すと消え、各キーの機能が解除されます。

8 Caps Lock（キャプスロック）英数キー

アルファベットを入力するときに使います。

【Shift】+【Caps Lock 英数】キーで大文字／小文字を切り替えます。

9 Ctrl (コントロール) キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

10 Windows (ウィンドウズ) キー

「スタート」メニューを表示するときに押します。

11 Alt (オルト) キー

他のキーと組み合わせて使います。アプリケーションごとに機能が異なります。

12 Application (アプリケーション) キー

マウスの右クリックと同じ役割をします。

選択した項目のショートカットメニューを表示するときに押します。

13 Enter (エンター) キー

リターンキーまたは改行キーとも呼ばれます。

文を改行したり、コマンドを実行したりします。

14 Delete (デリート) キー

文字を削除するときに押します。また、【Ctrl】キーと【Alt】キーを一緒に押すと、本パソコンをリセットできます。

15 End (エンド) キー

カーソルを行の最後や文書の最後に、一度に移動するときに押します。

16 カーソルキー

カーソルを移動します。

17 Page Down (ページダウン) キー

次の画面に切り替えるときに押します。

18 Page Up (ページアップ) キー

前の画面に切り替えるときに押します。

19 テンキー

「Num Lock」インジケータ点灯時に数字が入力できます。

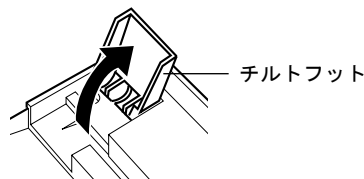
「Num Lock」インジケータ消灯時にキー下段に刻印された機能が有効になります。

20 Num Lock (ニューメリカルロック) キー

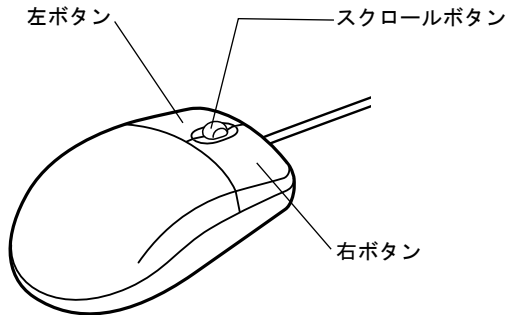
テンキーの機能を切り替えるときに押します。

POINT

- ▶ キーボード底面にあるチルトフットを起こすと、キーボードに角度をつけることができます。



3 マウスについて



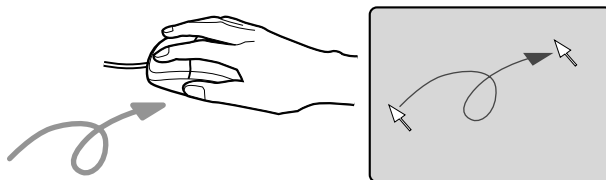
POINT

- ▶ マウスは、定期的にクリーニングを行ってください (▶▶ P.93)。

マウスの使いかた

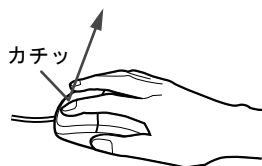
マウスの動かしかた

マウスの左右のボタンに指がかかるように手をのせ、机の上などの平らな場所で滑らせるように動かします。マウスの動きに合わせて、画面上の矢印（これを「マウスポインタ」といいます）が同じように動きます。画面を見ながら、マウスを動かしてみてください。



ボタンの操作

- クリック



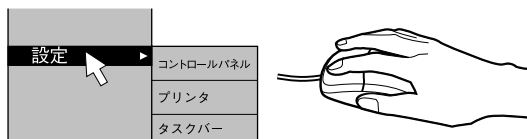
マウスの左ボタンを1回カチッと押します。
また、右ボタンをカチッと押すことを「右クリック」といいます。

- ダブルクリック



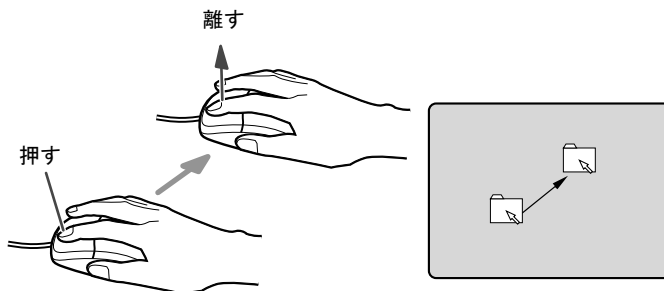
マウスの左ボタンを2回連続してカチカチッと押します。

- ポイント



マウスポインタをメニューなどに合わせます。マウスポインタを合わせたメニューの下に階層がある場合(メニューの右端に▶が表示されています)、そのメニューが表示されます。

- ドラッグ



マウスの左ボタンを押したままマウスを移動し、希望の位置でボタンを離します。

- スクロール (スクロールボタン付きのマウスのみ)

- ・ スクロールボタンを前後に操作することで、ウィンドウ内の表示をスクロールさせることができます。また、第3のボタンとして、押して使うこともできます。
- ・ スクロール機能は、対応したアプリケーションで使うことができます。

POINT

- ▶ 上記のボタン操作は、「マウスのプロパティ」ダイアログボックスで「右利き用」に設定した場合の操作です。

4 設置

本パソコンの設置方法、お使いになるうえでの注意事項について説明します。

設置する場所について

本パソコンを設置する場合は、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 10℃未満の低温になる場所
- 電源ケーブルなどのケーブルが足にひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所

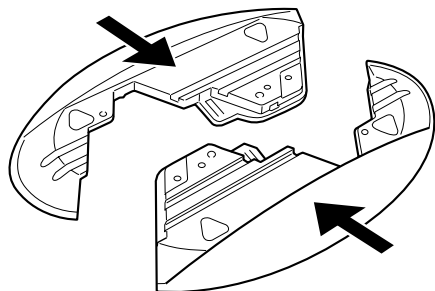
フットを取り付ける

縦置き

■ フットを2つ使う場合（ダブル）

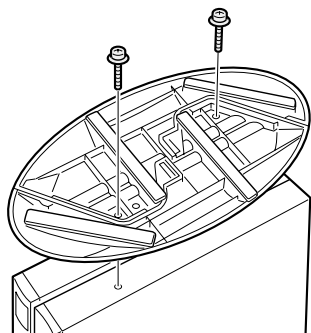
本パソコンを壁などに接しないで縦置きする場合、次の手順で取り付けてください。

- 1 フットを組み立てます。

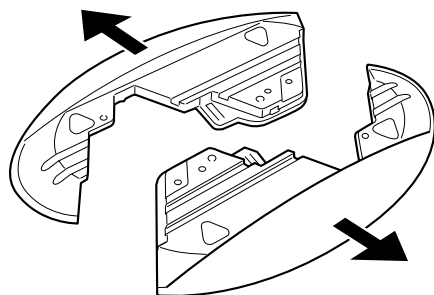


2 パソコン本体にフットを取り付けます。

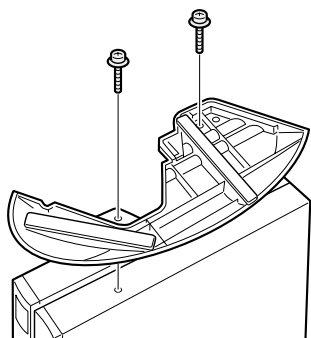
フット背面にある「DOUBLE」と書かれたネジ穴（2ヶ所）に、ネジで固定します。

**■ フットを1つ使う場合（シングル）**

本パソコンを壁などに接して縦置きする場合、次の手順で取り付けてください。

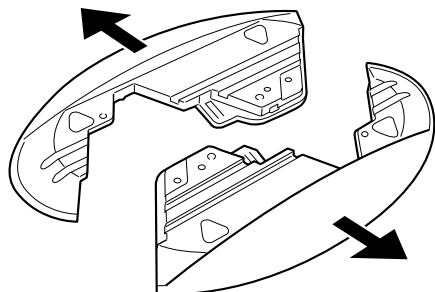
1 フットを分解します。**2** パソコン本体に分解した片方のフットを取り付けます。

フット背面にある「SINGLE」と書かれたネジ穴（2ヶ所）に、ネジで固定します。
縦置きしたとき、壁などがパソコン本体の右側になるようにフットを取り付けます。

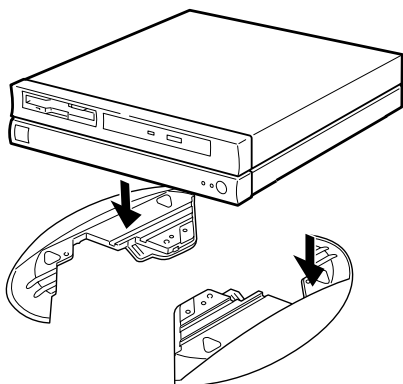


横置き

- 1 フットを分解します。

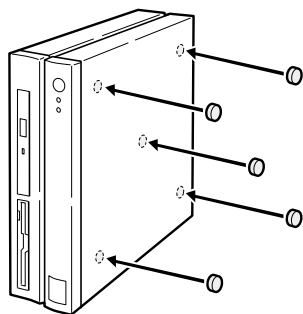


- 2 分解したフットの上にパソコン本体を載せます。



POINT

- ▶ 横置きする場合、パソコン本体の4隅と中央に添付のゴム足（5個）を取り付けて設置することもできます。
ゴム足を取り付ける場合、縦置きするときのフットに接触しない位置に取り付けてください。
パソコン本体のゴム足を取り付ける部分は、ほこりなどをふきとってから取り付けてください。
ゴム足を取り付けたあとにパソコン本体を移動する場合、ゴム足をひきずらないでください。

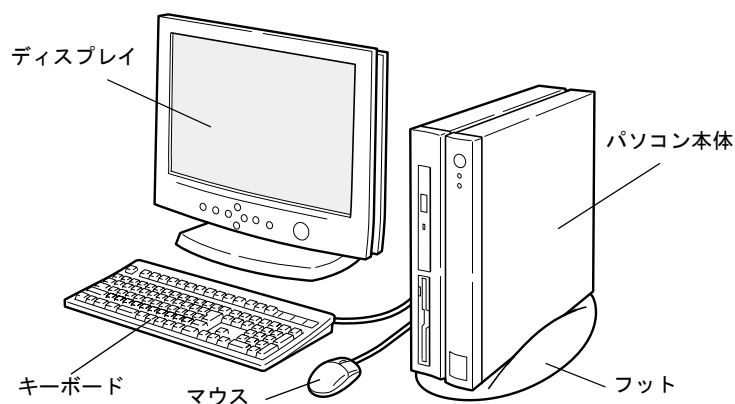


設置例

本パソコンは次のように設置してください。

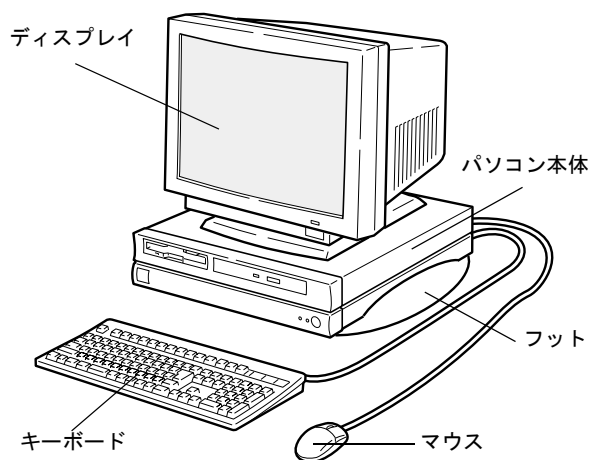
パソコン本体は次の図のように縦置き、または横置きにすることができます。設置の際は、パソコン本体背面にある通風孔をふさがないように注意してください。

縦置き



横置き

17型以下(ただし、19kg以下)のディスプレイのみパソコン本体の上に乗せることができます。



POINT

- ▶ これ以降の記述については、縦置きを前提としています。横置きにする場合は、読みかえてください。

5 接続

パソコン本体に、ディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

警告



感電

- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。アース接続をしないと、感電のおそれがあります。また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。火災の原因となります。



感電

- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。



感電

- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

注意



故障

- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、パソコン本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。



発火

- サービスコンセントがある装置の場合は、マニュアルに記載されていない装置をサービスコンセントに接続しないでください。火災・故障の原因となることがあります。



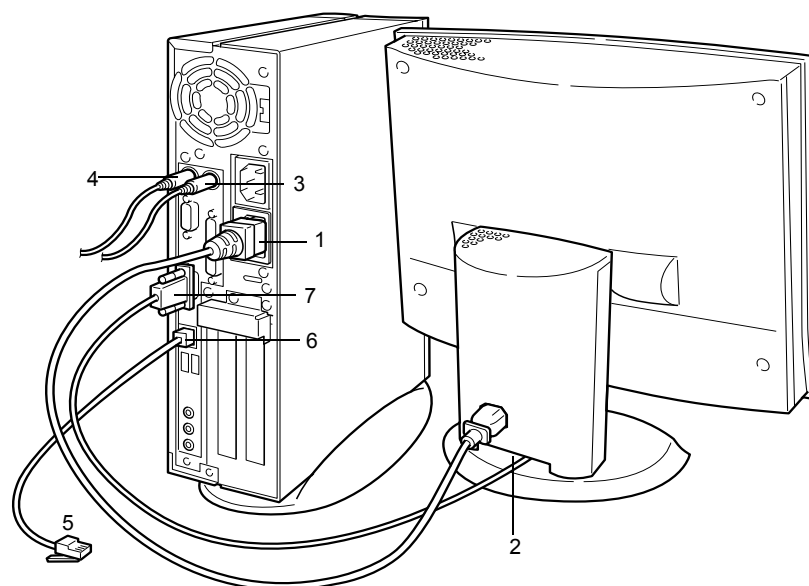
けが

- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ディスプレイ／キーボード／マウス／LAN ケーブルの接続

POINT

- ▶ LAN ケーブルは、別売のツイストペアケーブルをご購入のうえ、お使いください。
- ▶ 接続の際にコアを取り付ける必要があります。



1 電源ケーブルをアウトレットに接続します。

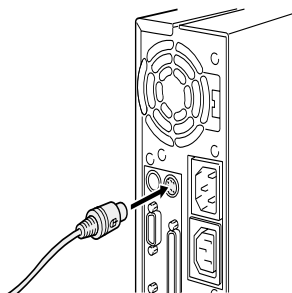
添付の電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグを、パソコン本体のアウトレットに接続します。

2 電源ケーブルをディスプレイに接続します。

添付の電源ケーブル（ディスプレイ用）の片方のプラグを、ディスプレイ背面のインレットに接続します。

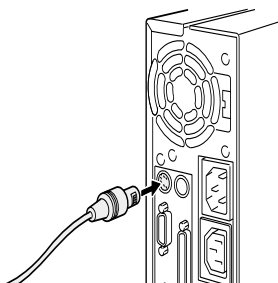
3 マウスを接続します。

マウスケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右向きにして、マウスコネクタの色とパソコン本体背面のマウスラベルの色が合うように接続します。



4 キーボードを接続します。

キーボードケーブルのコネクタに刻印されているマークの面を右向きにして、キーボードコネクタの色とパソコン本体背面のキーボードラベルの色が合うように接続します。



5 LAN ケーブルを接続します。

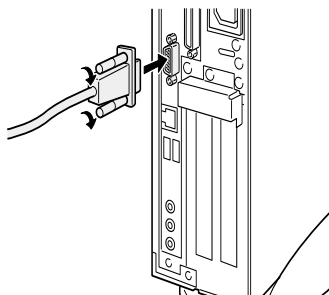
別売のツイストペアケーブルの片方のコネクタを、ハブユニットなどのネットワークのコネクタに接続します。

6 LAN ケーブルをネットワークに接続します。

別売のツイストペアケーブルの片方のコネクタをパソコン本体背面の LAN コネクタに接続します。

7 ディスプレイケーブルをパソコン本体に接続します。

ケーブルのコネクタを、パソコン本体背面のディスプレイコネクタ (CRT 用) に接続して、ケーブルのコネクタのネジを締めます。



電源ケーブルの接続

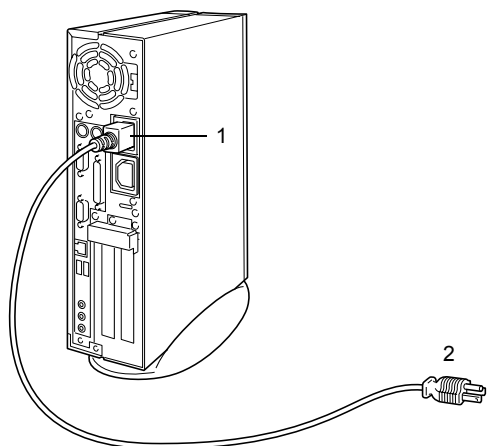
ディスプレイなどの周辺装置を接続したら、次の点に注意して電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだときやコンセントの差し込み口がゆるいときは、お使いにならないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。

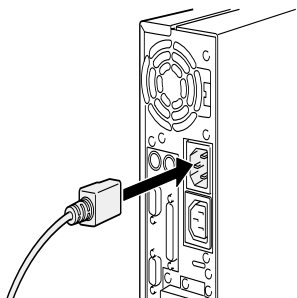
POINT

▶ 電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。

- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 2ピンのコンセントに接続する場合は、添付のアダプタプラグをお使いになり、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間お使いにならないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。

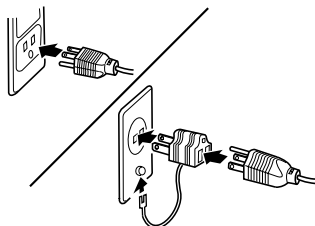


1 電源ケーブルのプラグをパソコン本体背面のインレットに接続します。



2 電源ケーブルのプラグをコンセント（AC100V）に接続します。

片方のプラグを、コンセントに接続します。コンセントが2ピンの場合は、添付のアダプタプラグを取り付けてから、コンセントに接続します。
アダプタプラグに付いているアース線を、アース端子のネジにネジ止めします。



6 電源を入れる

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

電源を入れるときの注意事項

- 電源ランプは、スタンバイ状態になるとオレンジ色に点灯します。
- パソコン本体の電源を入れる前に、必ずディスプレイが接続されていることを確認してください。ディスプレイを接続しないでパソコン本体の電源を入れると、ディスプレイが認識されず、画面が正常に表示されない場合があります。
- ディスプレイの電源ケーブルを本パソコンに接続している場合、ディスプレイの電源は本パソコンの電源と連動して入ります。そのため、ディスプレイの電源スイッチは一度押しおけば、以後操作する必要はありません。
次回からは手順2の本体の電源スイッチを押すだけで電源が入ります。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 電源を入れたあとすぐに電源を切る場合は、OS が起動してから「[電源を切る](#)」(▶▶ P.31)に従って電源を切ってください。
- 画面表示の開始や表示モードが切り替わるとき、一時的に画面が乱れたり、横線が見える場合があります (Windows の起動・終了画面、省電力モードからの復帰時など)。これは故障ではありませんので、そのままお使いください。
- 電源を入れたあと、ディスプレイに FUJITSU ロゴが表示されている間に、本パソコンは、パソコン内部の装置をチェックする「POST (ポスト : Power On Self Test)」を行います。POST 中は電源を切らないでください。POST の結果、異常があればエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージについては「[BIOS が表示するメッセージ一覧](#)」(▶▶ P.82)をご覧ください。
- 内蔵オプションの取り付けなどのとき、アッパーカバーを取り外したまま電源を入れないでください。

電源の入れかた

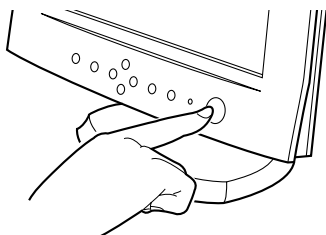
⚠ 注意



- 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。

1 ディスプレイの電源スイッチを押します。

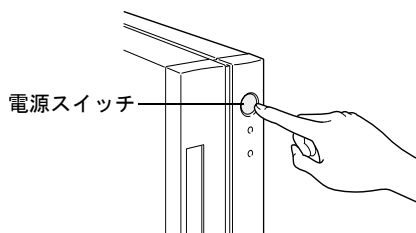
この時点では、画面に何も表示されません。



2 本体の電源スイッチを押します。

ディスプレイと本体の電源ランプが緑色に点灯します。

電源が入ると、ディスプレイに FUJITSU ロゴが表示され、その後システムが起動します。



電源を入れたあとは、Windows のセットアップを行います (●▶『ソフトウェアガイド』参照)。

7 電源を切る

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

電源を切るときの注意事項

- 電源を切る前に、すべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプ（▶ P.11）が消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかったり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源が入っている状態で、電源ケーブルをコンセントから抜いたり、停電によって電源が切断された場合は、再び電源ケーブルをコンセントに差し込むか、復電するのを待ってください。電源スイッチを押す必要はありません。復電すると自動的に電源が入り、本パソコンが起動されます。ただし、BIOS セットアップの「省電力設定」－「AC 通電再開時の動作」（▶ P.73）が「電源オフ」に設定されている場合は、電源が入りません。
- POST（自己診断）時に電源を切らないでください。OS が完全に起動されてから、後述の手順で切ってください。
- 通常の手段で電源が切れなかった場合や再起動できなかった場合、4 秒以上電源スイッチを押し続けて、電源を切ってください。ただし、電源スイッチを 4 秒以上押し続けて電源を切ると、ハードディスクを破壊するおそれがあります。緊急の場合以外は行わないでください。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合は、10 秒以上時間をあけてください。

電源の切りかた

Windows98 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータの電源を切れる状態にする」または「電源を切れる状態にする」をクリックし、「はい」または「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

WindowsNT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックし、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。
- ▶ BIOS セットアップで「APM による省電源管理」を「使用しない」に設定していると、「コンピュータの電源を切る準備ができました。」と表示されて電源が切れません。この場合、電源スイッチを押して電源を切ってください（●▶ P.72）。

Windows2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

Windows Me の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「終了」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

POINT

- ▶ 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

8 リセットする

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアがなんらかの理由で動かなくなった場合などに、リセット（再起動）を行います。ここでは、リセット（再起動）の方法について説明します。

POINT

- ▶ リセット（再起動）すると、メモリ内のデータが消失します。リセット（再起動）する前に、必要なデータは保存してください。

リセットの方法

Windows98 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windowsの終了」の順にクリックします。
「Windowsの終了」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」または「再起動する」をクリックし、「はい」または「OK」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

POINT

- ▶ 上記のようにリセット（再起動）ができない場合は、次のリセット（再起動）を行ってください。
 - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージに従って操作してください。

WindowsNT の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windowsのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

POINT

- ▶ 次のようにリセット（再起動）することもできます。
 - 1 【Ctrl】+【Alt】+【Delete】キーを押します。
「Windows NTのセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。

- 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックし、「OK」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

Windows2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

POINT

- ▶ 次のようにリセット（再起動）することもできます。
 - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

Windows Me の場合

- 1 「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックします。
「Windows の終了」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本パソコンがリセット（再起動）されます。

POINT

- ▶ 上記のようにリセット（再起動）ができない場合は、次のリセット（再起動）を行ってください。
 - 1 【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 キーを押します。
「プログラムの強制終了」ダイアログボックスが表示されたら、メッセージに従って操作してください。

9 CD について

本パソコンには、CD-ROM ドライブが内蔵されているモデルがあります。ここでは、CD の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、CD をお使いになるときは、次の点に注意してください。

CD 媒体の注意事項

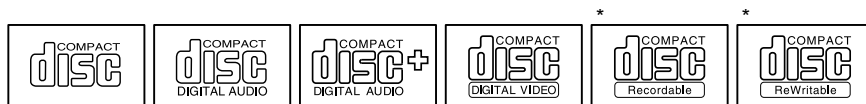
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- データ面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどはお使いにならないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

ドライブの注意事項

- 「CD 媒体の注意事項」が守られていない CD、ゆがんだ CD、割れた CD、ヒビの入った CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。上記の CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 本パソコンは、円形の CD のみお使いになれます。円形以外の異形 CD は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形 CD をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 別売の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

POINT

- ▶ CD-ROM は、音楽用 CD (コンパクトディスク) に、音の代わりにパソコンの情報 (文字など) を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本パソコンでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません (カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択した場合を除く)。
- ▶ 本パソコンでは、次図のマークがついた CD のみお使いになれます。マークのない CD はお使いにならないでください。故障の原因となることがあります。また、マークの種類によっては、アプリケーションが必要になる場合があります。



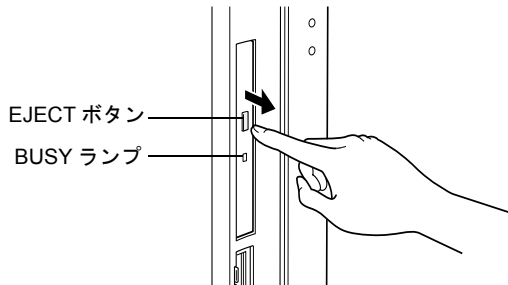
* 印のついた CD は、CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、書き込みができます。

CD をセットする / 取り出す

■ CD のセット

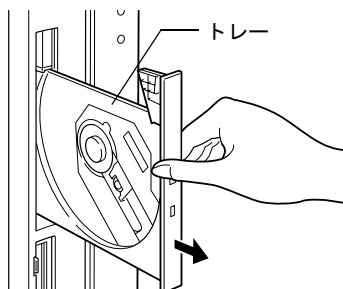
1 EJECT ボタンを押します。

EJECT ボタンの中央を押すと、CD をセットするトレイが少し出ます。



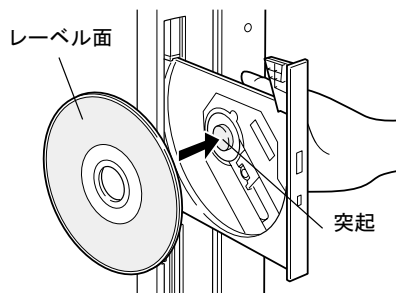
2 トレーを手で引きます。

図のようにトレイの中央を持って引き出してください。



3 CD のレーベル面を左にして、トレーの中央の突起に「パチン」という音がするまではめ込みます。

このとき、転倒しないようトレーを手で押さえてください。



POINT

- ▶ CD は、必ずトレーの中央の突起に「パチン」と音がするまで、はめ込んでください。きちんとはめ込まないと、故障などの原因となることがあります。

4 トレーを手で「カチッ」という音がするまで押します。

トレーが本体に入り、CD がセットされます。

POINT

- ▶ CD をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。
- ▶ トレーを入れるときに EJECT ボタンを押すとトレーが正しくセットされません。

■ CD の取り出し

CD の取り出しは、BUSY ランプが消えているのを確認してから、前述のように EJECT ボタンを押して行ってください。

10 フロッピーディスクについて

フロッピーディスクは、プログラムや情報を保存するための媒体です。ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、フロッピーディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものを載せたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクをセットする／取り出す

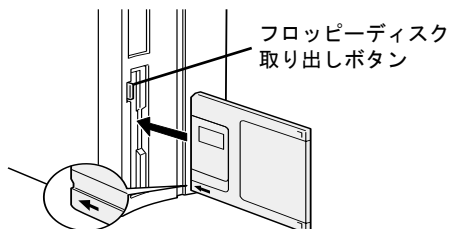
POINT

- ▶ DOS/V フォーマット済みのフロッピーディスクをお使いください。その他のフロッピーディスクをお使いになると、動作が保証されません。

■ フロッピーディスクのセット

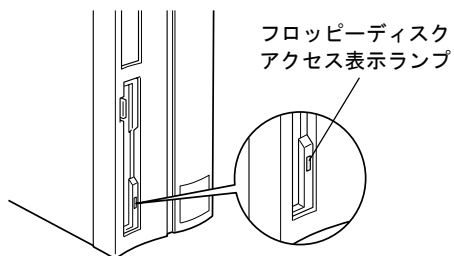
- 1 ラベル面を左にしてシャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。

「カシャッ」と音がして、フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出します。



■ フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。



POINT

- ▶ フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。

フロッピーディスクが出てきます。

11 ハードディスクについて

本パソコンには、ハードディスクが内蔵されています。ここでは、ハードディスクの取り扱いについて、気をつけていただきたいことを説明します。

ハードディスク取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクをお使いになるときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態でご使用を持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露や水滴がつかないようにしてください。

POINT

- ▶ 取り扱い方法によっては、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- ▶ 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

Memo

第2章

ハードウェアについて

本パソコンに取り付けられている（取り付け可能な）機器について、基本的な取り扱いかなどを説明しています。

- | | |
|----------------------|----|
| 1 周辺機器を取り付ける前に | 44 |
| 2 本体カバーを取り外す | 47 |
| 3 メモリを増やす | 48 |
| 4 拡張カードを増設する | 54 |


1 周辺機器を取り付ける前に

ここでは、周辺機器の概要について説明します。



周辺機器とは

本パソコンは、さまざまな周辺機器を接続・内蔵して機能を拡張できます。周辺機器の中には、お使いになれないものがあります。ご購入の前に「システム構成図」をご覧ください、その周辺機器が使えるかどうかを確認してください。

⚠ 警告

-  ● 周辺機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。
感電・火災または故障の原因となります。

⚠ 警告

-  ● 周辺機器類の取り付け、取り外しを行う際は、マニュアルに指定された場所以外のネジは、外さないでください。
指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあり、また、故障の原因となることがあります。
-  ● ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。
誤った接続状態でお使いになると、本パソコンおよび周辺機器が故障する原因となる場合があります。

取り扱い上の注意

周辺機器を取り付けるときは、次のことに注意してください。

- 周辺機器は、弊社純正品をお使いいただくことをお勧めします
純正品が用意されている周辺機器については、純正品以外を取り付けて、正常に動かなかったり、パソコンが故障しても、保証の対象外となります。
純正品が用意されていない機器については、本パソコンに対応しているかどうかをお使いの周辺機器メーカーにご確認ください。
- Windows のセットアップは終了していますか？
セットアップを行う前に周辺機器を取り付けると、セットアップが正常に行われずおそれがあります。
『ソフトウェアガイド』をご覧ください、Windows のセットアップを行ってください。
- 一度に取り付ける周辺機器は1つだけに
一度に複数の周辺機器を取り付けると、ドライバのインストールなどが正常に行われずおそれがあります。

- **パソコンおよび接続されている機器の電源を切る**

安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。パソコンの電源を切った状態でも、パソコン本体内部には電流が流れています。
- **電源を切った直後は作業をしない**

電源を切った直後は、パソコン本体内部の装置が熱くなっています。電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあと 10 分ほど待ってから作業を始めてください。
- **電源ユニットは分解しない**

電源ユニットは、パソコン本体内部の背面側にある箱形の部品です。
- **フットを取り外したあとは、柔らかい布の上などで作業してください**

固いものの上に直接置いて作業すると、パソコン本体に傷が付くおそれがあります。
- **内部のケーブル類や装置の扱いに注意**

傷つけたり、加工したりしないでください。
- **静電気に注意**

内蔵周辺機器は、基板や電子部品がむきだしになっています。これらは、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱う前に、一度大きな金属質のものに手を触れるなどして静電気を放電してください。
- **基板表面やはんだ付けの部分、コネクタ部分には手を触れない**

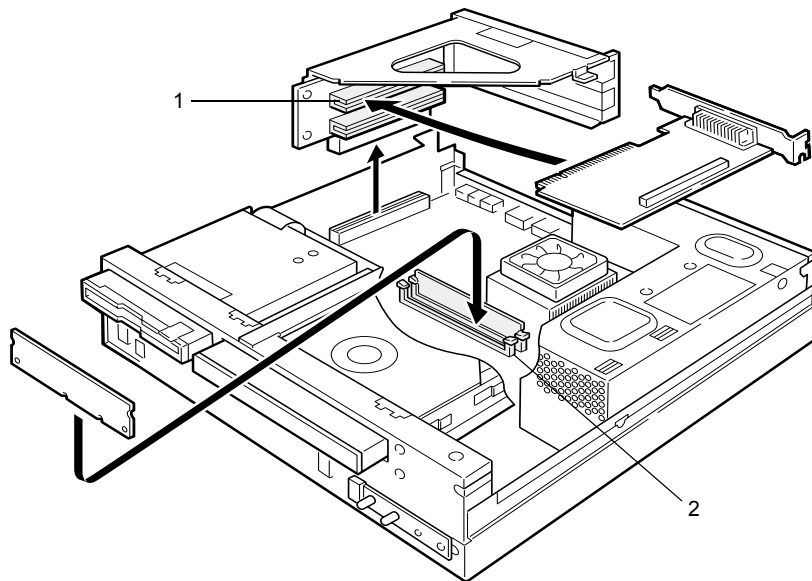
金具の部分や、基板のふちを持つようにしてください。
- **周辺機器の電源について**

周辺機器の電源はパソコン本体の電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコン本体より後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- **ACPIに対応した周辺機器をお使いください（Windows98/2000/Me）**

本パソコンは、ACPI（省電力に関する電源制御規格の1つ）に対応しています。ACPI対応のOSで周辺機器をお使いになる場合、周辺機器がACPIに対応しているか周辺機器の製造元にお問い合わせください。ACPIに対応していない周辺機器を使うと、正常に動作しないおそれがあります。
- **ドライバーを用意する**

パソコン本体のスロットカバーや金具などの取り外しには、プラスのドライバーが必要です。ネジの頭をつぶさないように、ネジのサイズに合ったドライバーをご用意ください。

取り付け位置



1 拡張カードスロット

本パソコンの機能を拡張します。たとえば、SCSI（スカジー）カードを取り付ければ、SCSI 規格のハードディスクや光磁気ディスクドライブなどがお使いになれます。

2 メモリスロット

メモリを取り付けます。メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力が上がります。

2 本体カバーを取り外す

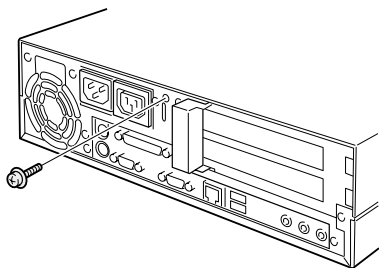
内蔵オプションを取り付けるときは、アッパーカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

アッパーカバーを取り外す

内蔵オプションを取り付けるときは、アッパーカバーを取り外して、内部が見える状態にします。

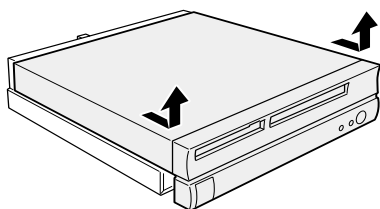
フットを取り付けている場合は、パソコン本体からフットを取り外し、横置きにしてからアッパーカバーを取り外してください。

- 1 パソコン本体背面の1ヶ所のネジを外します。



- 2 アッパーカバーを取り外します。

パソコン本体前側にスライドさせてから、上方に持ち上げて取り外します。



POINT

- ▶ 取り付けは、取り外しと逆の手順で行ってください。

3 メモリを増やす

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。本パソコンのメモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、パソコンの処理能力があがります。

POINT

- ▶ ご購入後、メモリを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切ったあとに取り付けを行ってください（▶ 『ソフトウェアガイド』参照）。

警告



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となります。

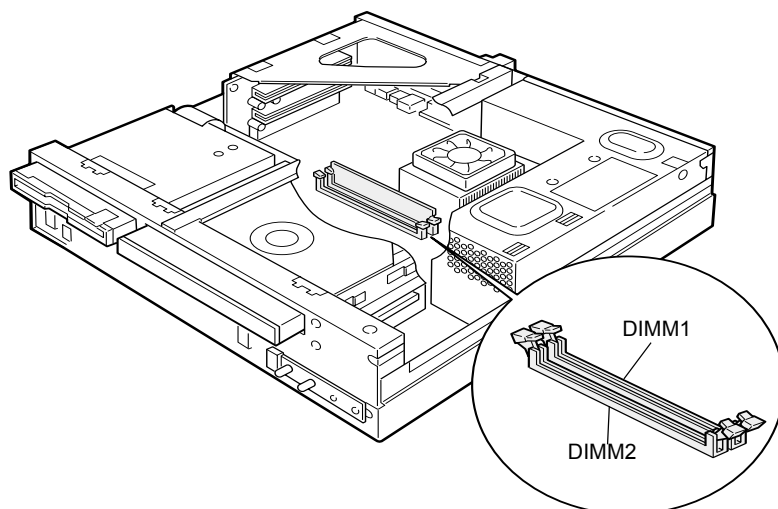
注意



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジを外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリの取り付け場所

メモリはパソコン本体内部のメモリスロットに取り付けます。



取り付けられるメモリ

本パソコンにメモリを増設する場合は、弊社純正品の「168 ピン SDRAM DIMM メモリ (100MHz、ECC 非対応)」をお使いください。

メモリの組み合わせ表

最大で 512MB の拡張 RAM を取り付けることができます。

標準構成では、DIMM1 にメモリが搭載されています。増設するメモリは、DIMM2 に取り付けてください。

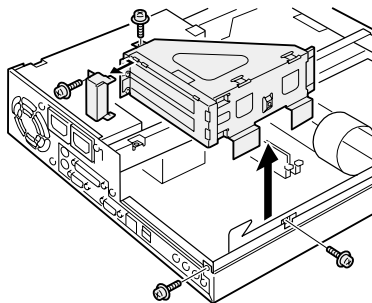
メモリの総容量によっては、DIMM1 のメモリを取り替える必要があります。メモリの総容量を 512MB にする場合には、DIMM1 のメモリを 256MB のメモリに入れ替えてください。

DIMM1	DIMM2	総容量
64 MB	—	64 MB (標準)
64 MB	64 MB	128 MB
64 MB	128 MB	192 MB
64 MB	256 MB	320 MB
128 MB	—	128 MB
128 MB	128 MB	256 MB
128 MB	256 MB	384 MB
256 MB	—	256 MB
256 MB	256 MB	512 MB

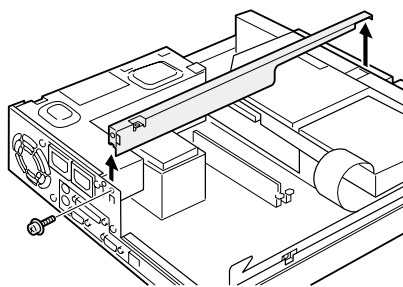
メモリを取り付ける／取り外す

メモリを取り付ける

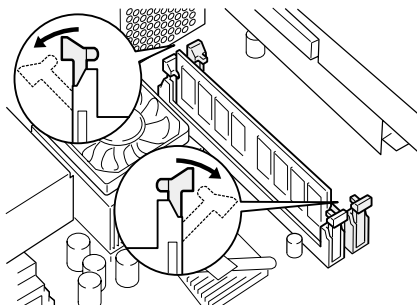
- 1 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2 アッパーカバーを取り外します。
- 3 拡張カード取り付け金具を取り外します。
ネジ（4ヶ所）を外し、拡張カード取り付け金具を真上に引き上げます。
すでに拡張カードが増設されている場合は、増設された拡張カードに接続されているケーブルを抜いてから、取り外してください。



- 4 補強金具を取り外します。
ネジ（1ヶ所）を外して、取り外します。



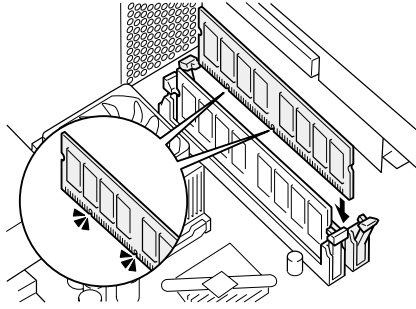
- 5 スロットの両側のフックを外側に開きます。



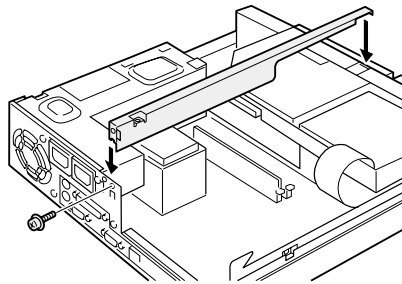
6 メモリをスロットに差し込みます。

メモリの切り欠け部分とスロットの切り欠け部分を合わせるようにして、スロットに垂直に差し込みます。

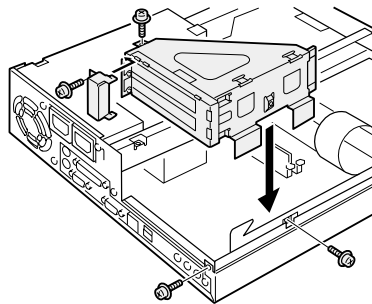
正しく差し込まれると、スロットの両側のフックが起きます。このとき、メモリがしっかりと固定されているか確認してください。

**7** 補強金具を取り付けます。

手順4で外したネジ（1ヶ所）で固定します。

**8** 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

手順3で外したネジ（4ヶ所）で固定します。

**9** アッパーカバーを取り付けます。

メモリを取り外す

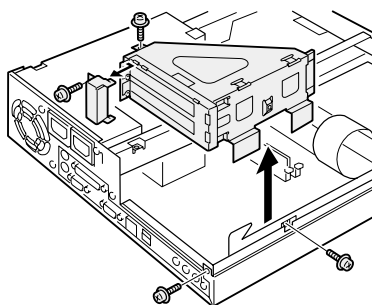
1 電源プラグをコンセントから抜きます。

2 アッパーカバーを取り外します。

3 拡張カード取り付け金具を取り外します。

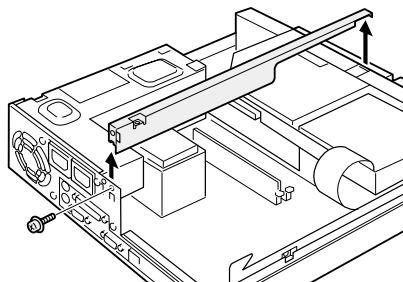
ネジ（4ヶ所）を外し、拡張カード取り付け金具を真上に引き上げます。

すでに拡張カードが増設されている場合は、増設された拡張カードに接続されているケーブルを抜いてから、取り外してください。

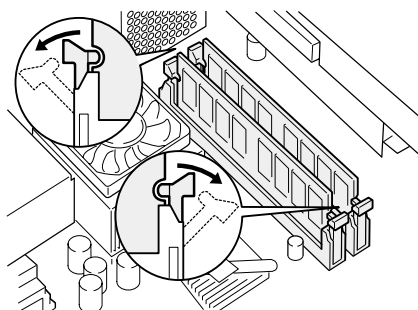


4 補強金具を取り外します。

ネジ（1ヶ所）を外して、取り外します。



5 スロットの両側のフックを外側へ開いて、メモリを抜きます。

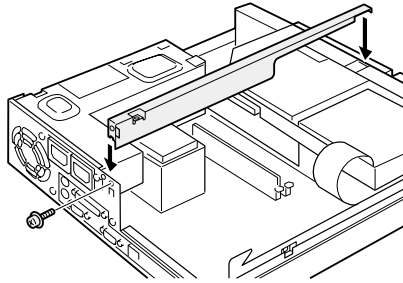


POINT

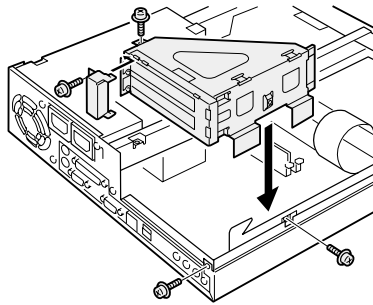
- ▶ フックを勢いよく外側へ開くと、メモリが飛び抜け、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

6 補強金具を取り付けます。

手順4で外したネジ(1ヶ所)で固定します。

**7** 拡張カード取り付け金具を取り付けます。

手順3で外したネジ(4ヶ所)で固定します。

**8** アッパーカバーを取り付けます。

4 拡張カードを増設する

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本パソコンの機能を拡張します。

POINT

- ▶ ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、Windows のセットアップを行ってから、一度電源を切ったあとに取り付けを行ってください（▶『ソフトウェアガイド』参照）。
- ▶ PCI1のスロットには、最大長120mmの拡張カードを取り付けることができます。PCI2のスロットは、カスタムメイドオプション専用です。

警告



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をお使いください。感電・火災または故障の原因となることがあります。

注意



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジは外さないでください。指定された場所以外のネジを外すと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板は、指定されている場所以外には手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- マザーボードのパソコン本体背面側の金具には、手を触れないでください。けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

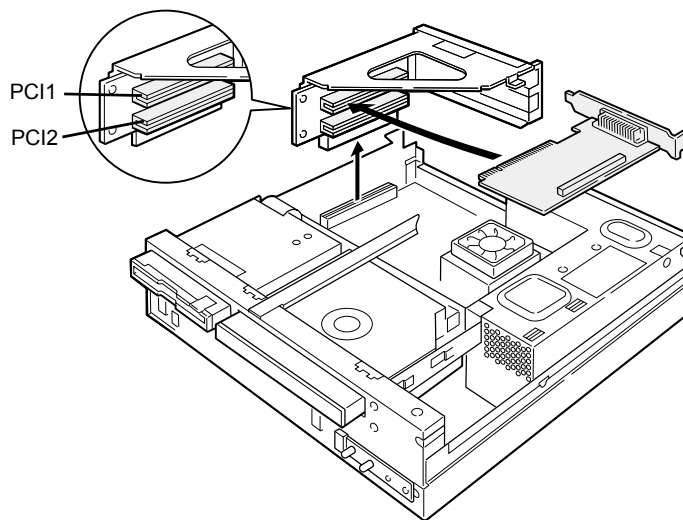
取り付けられる拡張カード

本パソコンには、PCI バス用拡張カードを取り付けることができます。

拡張カードが動作するためには、一般に「リソース」と呼ばれる動作上必要な資源が確保されている必要があります。

本パソコン内部のフロッピーディスクドライブやハードディスクドライブなどは、CPU やメモリなどとデータをやり取りするときに、あらかじめ装置ごとに決められている経路を使います。これらの経路には、I/O ポートアドレス、DMA チャンネル、割り込みレベル (IRQ) といった種類があり、これらを一般的に「リソース」と呼んでいます。

PCI バス用拡張カードは「プラグアンドプレイ対応」なので、取り付けるとリソースが自動的に設定されます。



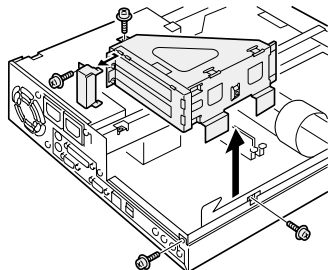
拡張カードを取り付ける

- 1** 電源プラグをコンセントから抜きます。
- 2** アップパーカバーを取り外します。

3 拡張カード取り付け金具を取り外します。

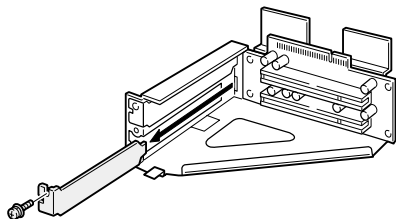
ネジ（4ヶ所）を外し、拡張カード取り付け金具を真上に引き上げます。

すでに拡張カードが増設されている場合は、増設された拡張カードに接続されているケーブルを抜いてから、取り外してください。



4 スロットカバーを取り外します。

拡張カードを取り付ける位置のネジ（1ヶ所）を外し、スロットカバーを取り外します。

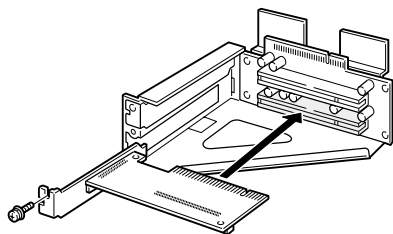


POINT

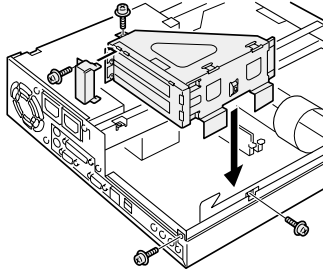
▶ 取り外したスロットカバーは大切に保管しておいてください。

5 拡張カードをスロットに差し込みます。

拡張カードをスロットにしっかり差し込み、手順4で取り外したネジ（1ヶ所）で固定します。



- 6** 拡張カード取り付け金具を取り付けます。
手順3で外したネジ(4ヶ所)で固定します。



- 7** アッパーカバーを取り付けます。

POINT

- ▶ 取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

- 8** 電源プラグをコンセントに差し込みます。

- 9** 本パソコンの電源を入れます。

● Windows98/2000/Me モデルの場合

デバイスドライバとリソースが自動的に設定され、拡張カードが使えます。

POINT

- ▶ プラグアンドプレイ機能によって自動的に選択されるデバイスドライバは、Windows98/2000/Meにあらかじめ登録されているものです。拡張カードや周辺装置によっては、登録されていないものもあります。そのような場合は、拡張カードに添付されているデバイスドライバの入ったフロッピーディスクなどを準備し、メッセージに従って設定してください。
- ▶ 拡張カードをお使いになる前に、デバイスマネージャでデバイスドライバが正しく登録されているか確認してください。登録されていない場合は、一度デバイスドライバを削除し、Windows98/2000/Meを再起動してください。

● WindowsNT モデルの場合

拡張カードのデバイスドライバを設定します。

拡張カードに添付のマニュアルをご覧ください。デバイスドライバを設定後、拡張カードが使えます。

Memo

第 3 章

BIOS セットアップ

本パソコンの日時や省電力モードの設定に必要なとなる、BIOS セットアップというプログラムについて説明しています。また、本パソコンのデータを守るためのパスワードの設定方法についても説明しています。

1	BIOS セットアップとは	60
2	BIOS セットアップの操作のしかた	61
3	ご購入時の設定に戻す	64
4	メニュー詳細	65
5	BIOS のパスワード機能を使う	79
6	BIOS が表示するメッセージ一覧	82

1 BIOS セットアップとは

ここでは、BIOS セットアップの概要について説明します。

BIOS セットアップはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本パソコンでは、必要最小限の設定はご購入時にすでに行われています。

次の場合のみ設定を行う必要があります。

- フロッピーディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本パソコンを利用できるように、本パソコンにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- シリアルポートなどの働きを設定するとき
- 自己診断中にメッセージが表示されたとき
- 他の OS を使うとき

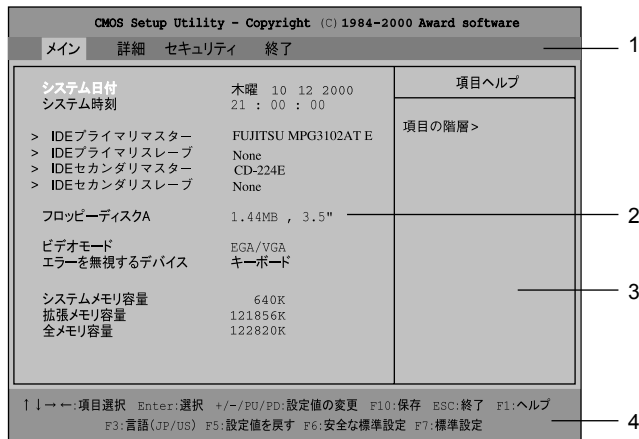
POINT

- ▶ BIOS セットアップで設定した内容は、パソコン本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。BIOS セットアップを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示される場合は、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

2 BIOS セットアップの操作のしかた

BIOS セットアップを起動する

- 1 作業を終了してデータを保存します。
- 2 本パソコンを再起動します。
 - Windows98 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動する」をクリックして、「OK」をクリックします。
 - WindowsNT モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「コンピュータを再起動する」をクリックして、「はい」をクリックします。
 - Windows2000 モデルの場合は、「スタート」ボタン→「シャットダウン」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
 - Windows Me モデルの場合は、「スタート」ボタン→「Windows の終了」の順にクリックし、「再起動」を選択して、「OK」をクリックします。
- 3 画面下に「Press TAB to show POST screen,<F2>SETUP,<F12>Boot Menu」と表示されたら、【F2】キーを「Entering setup now...」と表示されるまで押します。BIOS セットアップ画面が表示されます。



機種や装置により、表示が異なる場合があります。

- 1 メニューバー
メニューの名称が表示されます。
- 2 設定フィールド
各メニューで設定する、項目と設定値が表示されます。
- 3 ヘルプフィールド
カーソルを合わせた項目の内容が表示されます。
- 4 キー一覧
設定時に使うキーの一覧です。

設定を変更する

BIOS セットアップは、キーボードを使ってすべての操作を行います。

- 1** 【←】【→】キーを押して、設定を変更したいメニューにカーソルを合わせます。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、設定を変更したい項目にカーソルを合わせます。
 - ▶の付いている項目はサブメニューがあることを表示します。
 - ▶の付いている項目にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- 3** 【+】【-】キー（テンキー）または【Page Up】【Page Down】キーを押して、設定を変更します。

さらに他のメニューの設定を変更したいときは、手順1から繰り返します。

なお、サブメニューを表示していた場合は、【Esc】キーを押すと1つ前の画面に戻ります。

BIOS セットアップを終了するときには、「[BIOS セットアップを終了する](#)」(▶▶ P.63)をご覧ください。

各キーの役割

BIOS セットアップで使うキーの役割は次のとおりです。

キー	役割
【F1】キー	一般ヘルプ画面を表示します。一般ヘルプ画面は、BIOS セットアップの操作で使用するキーについて説明しています（英語のみ）。ヘルプを閉じるには、Esc キーを押します。
【F3】キー	言語（Language）を日本語、または英語に切り替えます。
【F5】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、前回保存した値に戻します。
【F7】キー	現在表示されているメニューの設定だけを、購入時の状態（標準設定値）に戻します。
【F10】キー	変更した内容を保存して、BIOS セットアップを終了します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。各メニューが表示されているときは、メインメニューに戻ります。メインメニューが表示されているときは、BIOS セットアップの終了メッセージを表示します。
【Enter】キー	▶が付いている項目のサブメニューの表示、設定値の一覧の表示、設定値の選択を行います。
【↑】【↓】【→】【←】キー	メニュー画面の切り替えや、項目間のカーソル移動に使います。
【PageUp】 【PageDown】 【+】【-】キー	設定値を変更します。

BIOS セットアップを終了する

- 1** 【←】【→】キーを押して、「終了」メニューにカーソルを合わせます。
なお、サブメニューを表示していた場合は、【ESC】キーを押してメニューバーに「終了」メニューが表示されてから、同じ操作を行います。
- 2** 【↑】【↓】キーを押して、終了方法を選び、【Enter】キーを押します。
終了方法については、「終了メニュー」(▶▶ P.78)をご覧ください。
- 3** メッセージの後に「Y」が表示されていることを確認してから、【Enter】キーを押します。もし、「N」が表示されているときは、【Y】キーを押してから【Enter】キーを押します。
BIOS セットアップが終了します。

3 ご購入時の設定に戻す

「標準設定」メニューの「標準設定値を読み込む」を実行したあとに、次の設定を変更してください。

- WindowsNT の場合
 - ・「詳細」－「省電力設定」－「省電力モード」－「ハードディスク省電力」：15分
 - ・「詳細」－「省電力設定」－「省電力モード」－「ディスプレイ省電力」：30分
 - ・「詳細」－「PnP/PCI 設定」－「プラグアンドプレイ対応 OS」：いいえ
- Windows2000 の場合
 - ・「詳細」－「PnP/PCI 設定」－「プラグアンドプレイ対応 OS」：いいえ

4 メニュー詳細

ここでは、BIOS セットアップの個々のメニューについて説明します。

重要

- ▶ 各設定の標準設定値をアンダーラインで表記しています。
- ▶ お使いになるモデルによっては、ご購入時の設定が標準設定値と異なる場合があります。この場合、ご購入時の設定を「(初期値: Windows ××モデル)」で表記しています。
- ▶ 本パソコンにインストールされている Windows98/2000/Me は、ACPI モード (S3) に設定されています。

メインメニュー

メインメニューでは、デバイスや日時の設定などを行います。

設定項目の詳細

■ システム日付

年月日を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

■ システム時刻

時刻を設定します。キーボードから数値を入力します。【Tab】キー、【Enter】キーで右の項目に移動します。

POINT

- ▶ システム時刻、システム日付は一度合わせれば電源を入れるたびに設定する必要はありません。
 - ▶ 入力した数値を修正するときは、【Back space】キーを押して設定値を消し、そのあと入力してください。
- IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブメニュー
- サブメニューを使って、プライマリ IDE やセカンダリ IDE に取りつけたハードディスクの、タイプ (容量やシリンダ数など) を設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。
- ハードディスクの自動検出…【Enter】キーを押すとハードディスクの自動検出を行います。ハードディスク以外は検出されません。
 - IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ…IDE デバイスのタイプを設定します。「自動」以外を選択すると、「シリンダ数」、「ヘッド数」、「セクタ数」を手動で設定することができます。
 - ・ なし：IDE デバイスを使いません。
 - ・ 自動：IDE デバイスのタイプを自動的に設定します。
 - ・ 手動：IDE デバイスのタイプを手動で設定します。

- **アクセスモード**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクのアクセスモードを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」、「手動」に設定した場合に設定できます。
 - ・ **CHS** : シリンダ番号/ヘッド番号/セクタ番号によるアクセスが行われます。
 - ・ **LBA** : LBA (Logical Block Addressing : 論理的な通し番号によるアクセス) が行われます。
 - ・ **Large** : 拡張 CHS (Cylinder/Head/Sector) 変換によるアクセスが行われます。
 - ・ **自動** : 最適なモードが設定されます。

POINT

- ▶ 通常は「自動」に設定してください。
 - ▶ ハードディスクをフォーマットしたあとに本設定を変更すると、正常にアクセスできない場合があります。フォーマットしたあとは、変更しないでください。
- **最大容量**…ハードディスクが取り付けられている場合に、ハードディスクドライブの最大容量を表示します。

POINT

- ▶ 本項目のディスク容量記載は、1MB=1024²byte 換算によるものです。
- **シリンダ数**…ハードディスクのシリンダ数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
 - **ヘッド数**…ハードディスクのヘッド数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。
 - **仮書き込みシリンダ**…ハードディスクヘデータを書き込んでいるときにデータの保護を行うために BIOS がシリンダのどこへ仮書き込みを行うかを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

POINT

- ▶ 「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「手動」に、「アクセスモード」を「CHS」に設定した場合、65535 か 0 に設定してください。
- **ヘッドの退避シリンダ**…システムの電源が切断されたときに、ハードディスクのヘッドをどこのシリンダに退避させるかを設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定した場合、設定できません。

POINT

- ▶ 「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「手動」に、「アクセスモード」を「CHS」に設定した場合、「物理シリンダ数の最大値'-1」の値に設定してください。
- **セクタ数**…ハードディスクのセクタ数を設定します。「IDE プライマリマスター/スレーブ、IDE セカンダリマスター/スレーブ」を「自動」に設定すると、最適な値が設定されます。

■ フロッピーディスク A

フロッピーディスクドライブ (A ドライブ) のタイプを設定します。

- 使用しない：A ドライブをしません。
- 360KB,5.25"、1.2MB,5.25"、720KB,3.5"、1.44MB, 3.5"、2.88MB,3.5"

■ ビデオモード

画面表示の規格を設定します。通常は「EGA/VGA」のままお使いください。

- EGA/VGA、CGA 40、CGA 80、MONO

■ エラーを無視するデバイス

自己診断でエラーを検出したとき、エラーを無視するデバイスを設定します。

- なし
すべてのエラーを有効にします。
- 全て無視
すべてのエラーを無視します。
- キーボード
キーボードに関するエラーを無視します。
- フロッピー
フロッピーに関するエラーを無視します。
- キーボード／フロッピー
キーボードとフロッピーに関するエラーを無視します。

■ システムメモリ容量

システムメモリの容量が表示されます。設定はできません。

■ 拡張メモリ容量

拡張メモリの容量が表示されます。設定はできません。

■ 全メモリ容量

本装置に搭載されている全メモリ容量から、VRAM で使われているメモリ容量を除いたものが表示されます。

詳細メニュー

詳細メニューでは、次のサブメニューでフロッピーディスクドライブ、IDE デバイスなどの設定を行います。

BIOS 設定
チップセット設定
内蔵デバイス設定
省電力設定
PnP/PCI 設定

設定項目の詳細

■ BIOS 設定

ウイルスを検出したときの警告、起動デバイスの優先順位などを設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **ウイルス検出時の警告**…ハードディスクのブートセクタへの書き込み要求が発生した場合に、警告メッセージを表示するかどうかを設定します。
 - ・ **有効**：警告メッセージを表示するようにします。
 - ・ **無効**：警告メッセージを表示しないようにします。

○ POINT

- ▶ ウイルス検出用アプリケーションや OS をインストールする場合は、「無効」に設定してください。

- **プロセッサシリアルナンバ**…Intel Pentium III Processor が持つプロセッサシリアルナンバ機能を有効または無効にするかを設定します。
 - ・ **有効**：プロセッサシリアルナンバ機能を有効にします。
 - ・ **無効**：プロセッサシリアルナンバ機能を無効にします。

○ POINT

- ▶ Intel Celeron Processor は、本機能を持っていません。

- **高速起動**…起動してから OS を読み込むまでの時間を、短くするかどうかを設定します。自己診断テストを簡略化します。
 - ・ **無効**：OS を読み込むまでの時間を短くしません。
 - ・ **有効**：OS を読み込むまでの時間を短くします。
- **起動時の自己診断画面**…本パソコンの起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示するかどうかを設定します。
 - ・ **有効**：起動時または再起動時に自己診断（POST）画面を表示します。
 - ・ **無効**：起動時または再起動時に「FUJITSU」ロゴを表示します。

- **起動デバイスの優先順位 1 ~ 4**…起動デバイスの優先順位を設定します。「LAN」を設定した場合、ネットワーク経由で本パソコンを起動できます。
 - 1:Floppy、2:HDD、3:CD-ROM、4: 使用しない

POINT

- ▶ ネットワークサーバから起動するためには、「LAN」を起動デバイスの優先順位 1 に設定してください。また、『Wired for Management Baseline Version 2.0』に準拠したインストールサーバシステムが必要となります。

- **起動時の NumLock 設定**…起動時に、キーボードを NumLock 状態にするかどうかを設定します。
 - **Off** : キーボードを NumLock 状態にしません。
 - **On** : キーボードを NumLock 状態にします。
- **メモリ容量検出のための OS 選択**…64MB以上の全メモリ容量を検出するための OS を選択します。
 - **その他** : お使いになる OS が、OS/2 以外の場合に選択します。
 - **OS/2** : お使いになる OS が、OS/2 の場合に選択します。
- **ハードディスクの S.M.A.R.T.**…ハードディスクが故障しそうな場合に、警告を表示するかどうかを設定します。
 - **無効** : 警告を表示しません。
 - **有効** : 警告を表示します。

POINT

- ▶ 警告表示を行うためには、専用のアプリケーションが必要になります。

■ チップセット設定

チップセットに関する設定を行います。設定内容によってシステムが不安定になり故障の原因になる場合があります。設定を変更せず、初期値のままでお使いください。

- **フレームバッファサイズ**…画面表示用に割り当てるメモリのサイズを設定します。
 - NA、4M、**8M**、16M、32M
- **AGP アパチャーサイズ**…AGP ビデオコントローラが使うアパーチャサイズを設定します。
 - 128M、**64M**、32M、16M、8M、4M

■ 内蔵デバイス設定

ハードディスクの転送モードや Ultra DMA モード、シリアルポート、パラレルポートなどの設定を行います。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **IDE プライマリコントローラ / IDE セカンダリコントローラ**…IDE インターフェースを有効にするかどうかを設定します。通常は、「有効」に設定してください。
 - **無効** : IDE インターフェースを無効にして、リソースを解放します。IDE インターフェースに接続されているデバイスは、使えなくなります。
 - **有効** : IDE インターフェースを使います。
- マスター / スレーブ / PIO 転送モード** : データの転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が上がります。
- **自動** : 自動的に、最適なモードが設定されます。

- **Mode 0～4**:設定により、それぞれ最大3.3/5.2/8.3/11.1/16.7MB/秒の転送速度になります。
マスター／スレーブ／ Ultra DMA モード : Ultra DMA の転送モードを設定します。数値が大きいほど転送速度が上がります。
- **使用しない** : Multiword DMA モードに設定します。
- **自動** : 最適なモードに設定されます。
- **USB コントローラ**…USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。USB コントローラを「無効」にすると、すべてのUSB機器が使えなくなります。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
- **無効** : USB コントローラを無効にします。
- **有効** : USB コントローラを有効にします。
- **USB キーボード** : USB キーボードを使えるようにするかを設定します。USB コントローラを「有効」に設定したとき本設定を変更できます。USB キーボードをお使いになるときは「有効」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
- **無効** : USB キーボードを無効にします。
- **有効** : USB キーボードを有効にします。

POINT

- ▶ 「USB キーボード」を「有効」に設定すると、USBに対応していないOSでは、システム全体の動作が遅くなります。USBキーボードをお使いにならない場合は「無効」に設定してください。

なお、USBに対応していないOSでは、PS/2キーボードのご使用をお勧めします。

- **USB マウス** : USB マウスを使えるようにするかを設定します。USB コントローラを「有効」に設定したとき本設定を変更できます。USB マウスをお使いになるときは「有効」を選択してください。本設定は、自己診断の終了後、有効になります。
- **無効** : USB マウスを無効にします。
- **有効** : USB マウスを有効にします。

POINT

- ▶ 「USB マウス」を「有効」に設定すると、USBに対応していないOSでは、システム全体の動作が遅くなります。USBマウスをお使いにならない場合は「無効」に設定してください。

なお、USBに対応していないOSでは、PS/2マウスのご使用をお勧めします。

- **サウンドコントローラ**…内蔵のサウンドデバイスを有効にするかどうかを設定します。
- **自動** : 本パソコンが自動的に内蔵のサウンドデバイスを有効にします。
- **使用しない** : 内蔵のサウンドデバイスを無効にします。
- **LAN コントローラ**…マザーボード上のLANアダプタを有効にするかどうかを設定します。
- **無効** : LANアダプタを無効にしてリソースを解放します。
- **有効** : LANアダプタを有効にします。

- **プライマリディスプレイ**…プライマリディスプレイとして使うビデオデバイスを選択します。本設定は、マルチディスプレイ機能を行うときに使います。通常は、「Onboard」に設定してください。
 - ・ **PCI Slot** : PCI スロット 1-2…、マザーボード上のビデオアダプタの順に、プライマリディスプレイを自動的に選択します。PCI のディスプレイカードを増設していない場合は、マザーボード上のビデオアダプタを使います。
 - ・ **On Board** : マザーボード上のビデオアダプタを使います。
- **ハードディスクマルチセクタ転送**…ハードディスクのマルチセクタ転送を有効にするかどうかを設定します。
 - ・ **無効** : ハードディスクのマルチセクタ転送をしません。
 - ・ **有効** : ハードディスクのマルチセクタ転送をします。
- **フロッピーディスクコントローラ**…フロッピーディスクコントローラを使うかどうかを設定します。
 - ・ **無効** : フロッピーディスクコントローラを無効にします。
 - ・ **有効** : フロッピーディスクコントローラを有効にします。
- **シリアルポート**…シリアルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ **使用しない** : シリアルポートに I/O アドレスを割り当てません。
 - ・ **3F8/IRQ4、2F8/IRQ3、3E8/IRQ4、2E8/IRQ3** : 割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ **Auto** : 本パソコンが自動的に I/O ポートアドレスと、割り込み要求 (IRQ) を割り当てます。
- **パラレルポート**…パラレルポートに割り当てる I/O アドレスを設定します。
 - ・ **使用しない** : パラレルポートに I/O アドレスを割り当てません。
 - ・ **3BC/IRQ7、378/IRQ7、278/IRQ5** : 割り当てる I/O アドレスを設定します。
- **パラレルポートモード** : パラレルポートのデータ転送モードを設定します。
 - ・ **Normal**、EPP、ECP、ECP/EPP : 接続する周辺機器に合わせて、設定してください。
- **DMA チャンネル** : ECP 用の DMA チャンネルを設定します。「パラレルポートモード」を「ECP/EPP」または「ECP」に設定した場合に設定できます。
 - ・ 1、3
- **EPP タイプ**…パラレルポートの EPP タイプを設定します。「パラレルポートモード」を「ECP/EPP」または「EPP」に設定した場合に設定できます。
 - ・ **EPP1.9**、EPP1.7

■ 省電力設定

ハードディスク省電力、スタンバイ移行時間、スタンバイに移行するまでの条件、電源スイッチなどの設定をします。カーソルを合わせて **【Enter】** キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- **省電力モード**
 - ・ **省電力モード**…省電力機能を使うかどうかを設定します。
 - ・ **ユーザー設定** : 各項目を個別に設定できるようにします。
 - ・ **Min Saving** : 性能を損なわない範囲で、消費電力をおさえます。
 - ・ **Max Saving** : 電力消費を最小限におさえます。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ハードディスク省電力**…ハードディスクへのアクセスがなくなってから、ハードディスクのモーターを止めるまでの時間を設定します。
 - **使用しない** (初期値 : Windows98/2000/Me モデル) : ハードディスクのモーターを止めません。
 - **1Min ~ 15Min** (初期値 (15Min) : WindowsNT モデル) : 設定した時間後に、ハードディスクのモーターを止めます。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- **ディスプレイ省電力**…「省電力モード」が「ユーザー設定」に設定されている場合に設定できます。ディスプレイを省電力モードに移行するかどうかを設定します。
 - **使用しない** (初期値 : Windows98/2000/Me モデル) : ディスプレイを省電力モードに移行しません。
 - **1Min ~ 1Hour** (初期値 (30Min) : WindowsNT モデル) : ディスプレイを省電力モードに移行します。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ 本機能をお使いになるためには、省電力対応のディスプレイが必要です。
- **スタンバイ移行時間**…「省電力モード」が「ユーザー設定」に設定されている場合に設定できます。スタンバイモードに移行するまでの時間を設定します。
 - **使用しない** : スタンバイモードに移行しません。
 - **1Min ~ 1Hour** : 設定した時間後にスタンバイモードに移行します。

POINT

- ▶ OS を APM モードでお使いになる場合、OS が本設定を変更することがあります。
 - ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
 - ▶ WindowsNT をお使いの場合、本設定を変更しないでください。時計が止まります。
- **ACPI 設定**
 - **標準** : スタンバイ方式を S1 に設定します。システムの状態は保持していますが、CPU を停止させます。
 - **高度** : スタンバイ方式を S3 に設定します。システムの状態をメモリに保持し、その他の回路を停止させます。
 - **APM による省電力管理**

APM に対応の OS (APM モードの Windows98) による省電力の管理を設定します。

 - **使用しない** : APM 対応の OS によるスタンバイや電源切断を使用禁止にします。この場合、BIOS の設定が常に使われます。
 - **使用する** : APM 対応の OS によるスタンバイや電源切断を可能にします。

- **ディスプレイの省電力オプション**
 - **Always On** : ディスプレイを省電力モードに移行しません。
 - **Suspend->off** : システムがサスペンドに移行した場合、ディスプレイを省電力モードに移行します。
 - **All Modes->off** : システムがサスペンドやスタンバイモードに移行した場合、ディスプレイを省電力モードに移行します。
- **ディスプレイの省電力方法**…ディスプレイを省電力モードに移行した場合の省電力方法について設定します。
 - **Blank Screen** : ディスプレイの表示を消します。
 - **V/H Sync+Blank** : 水平同期信号と垂直同期信号の両方を止め、ディスプレイの表示を消します。
 - **DPMS** : 水平同期信号と垂直同期信号の両方を止めます。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。
- ▶ 本機能をお使いになるためには、省電力対応のディスプレイが必要です。

- **モデムの IRQ**…モデム（シリアルポート接続）に割り当てる IRQ（割り込み要求）を設定します。「省電力設定」-「シリアルポート」では、本設定で割り当てられた IRQ を監視します。
 - **使用しない** : モデムに IRQ を割り当てません。
 - **3、4、5、7、9、10、11** : モデムに割り当てる IRQ を設定します。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **電源スイッチ**…本パソコンの動作中に、電源スイッチを押したときの動作を設定します。
 - **スタンバイ** : 電源スイッチを押すと、スタンバイモードに移行します。
 - **電源OFF** : 電源スイッチを押すと、電源が切れます。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **AC 通電再開時の動作**

停電などで電源が切断された場合に、通電再開時の動作を設定します。

- **Auto** : 電源が切断されたときの状態に戻ります。
- **On** : 電源が入ります。
- **Off** : 電源が切れたままになります。

POINT

- ▶ 「On」または「Off」に設定した場合、AC 電源切断後 10 秒以上待ってから電源を入れてください。10 秒以内に入れると正常に動作しなくなります。
- ▶ 「自動」に設定していて、電源が切れたときの状態がサスペンド、または休止状態の場合、通電再開時に電源が入ります。

● 自動ウェイクアップ

- **VGA**…VGA デバイスにアクセスがあった場合、スタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - **OFF** : スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **ON** : スタンバイ状態からの復帰を行います。
- **LTP&COM**…設定したデバイスにアクセスがあった場合、スタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - **NONE** : スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **LPT** : パラレルポートにアクセスがある場合、スタンバイ状態からの復帰を行います。
 - **COM** : シリアルポートにアクセスがあった場合、スタンバイ状態からの復帰を行います。
 - **LTP/COM** : パラレルポートまたはシリアルポートにアクセスがあった場合、スタンバイ状態からの復帰を行います。
- **HDD&FDD**…ハードディスクドライブまたはフロッピーディスクドライブにアクセスがあった場合、スタンバイ状態からの復帰を行います。
 - **OFF** : スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **ON** : スタンバイ状態からの復帰を行います。
- **PCI Master**…PCI カードにアクセスがあった場合、スタンバイ状態からの復帰を行います。
 - **OFF** : スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **ON** : スタンバイ状態からの復帰を行います。
- **LAN によるウェイクアップ**…内蔵 LAN または PME 対応の LAN カード (PCI) が Magic Packet を受信したときに電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかを設定します。
 - **無効** : Magic Packet の受信で電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりしません。
 - **有効** : Magic Packet の受信で電源を入れたり、スタンバイ状態から復帰したりします。

 **POINT**

- ▶ Windows98/2000/Me では、本項目を設定してもスタンバイや休止状態から復帰させることはできません。デバイスマネージャで設定してください。

- **モデム着信によるウェイクアップ**…モデム (シリアルポートに接続) がリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - **無効** : モデムがリング信号を受信しても、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **有効** : モデムがリング信号を受信したときに、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

 **POINT**

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **時刻によるウェイクアップ**…指定した時刻になったときに、本パソコンの電源を入れる、またはスタンバイ状態から復帰するかどうかを設定します。
 - **無効**：指定した時刻に、本パソコンの電源を入れません。また、スタンバイ状態からの復帰を行いません。
 - **有効**：指定した時刻に、本パソコンの電源を入れます。または、スタンバイ状態からの復帰を行います。

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ日付**…ウェイクアップする日付を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に設定できます。
 - 0 ~ 31

POINT

- ▶ 本機能を毎日お使いになりたいときは、「0」に設定します。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ時刻 (時)**…ウェイクアップする時刻 (時) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に設定できます。
 - 0 ~ 23

POINT

- ▶ 本機能を毎日お使いになりたいときは、「0」に設定します。
- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **ウェイクアップ時刻 (分)**…ウェイクアップする時刻 (分) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に、設定できます。
 - 0 ~ 59
- **ウェイクアップ時刻 (秒)**…ウェイクアップする時刻 (秒) を設定します。「時刻によるウェイクアップ」を「有効」に設定した場合に、設定できます。
 - 0 ~ 59

POINT

- ▶ OS を ACPI モードでお使いになる場合、本設定は無効になります。

- **IRQ アクティブ検出**
 - **プライマリ INTR**…IRQ にアクセスがあった場合、スタンバイモードに移行しません。本設定を「ON」にした場合、IRQ ごとに設定ができます。
 - OFF：スタンバイモードに移行します。
 - ON：スタンバイモードに移行しません。

■ PnP/PCI 設定

プラグアンドプレイ対応の OS、リソースを設定します。カーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、サブメニューが表示されます。

- プラグアンドプレイ対応 OS…Windows98/Me など、お使いになる OS が、プラグアンドプレイに対応しているかどうかを設定します。

Windows2000 はプラグアンドプレイに対応していますが、本項目では「いいえ」に設定してください。

- ・ **いいえ** (初期値: WindowsNT/2000 モデル): プラグアンドプレイに対応している OS を、使わない場合に選択します。
- ・ **はい** (初期値: Windows98/Me モデル): プラグアンドプレイに対応している OS を、使う場合に選択します。

POINT

- ▶ Windows98/Me 以外の OS をお使いになる場合、または Windows95/98/Me と WindowsNT/2000 をマルチブートする場合は、「いいえ」に設定してください。

- リソース (ESCD) の初期化…システムの構成情報が格納されている ESCD (Extended System Configuration Data) の内容を、初期化するかどうかを設定します。

- ・ **無効**: ESCD の内容を、初期化しません。
- ・ **有効**: ESCD の内容を、初期化します。再起動後は、自動的に「無効」に戻ります。

- リソース設定…IRQ (割り込み要求) を設定します。

- ・ **自動**: 自動的にリソースが割り当てられます。
- ・ **手動**: 手動でリソースを割り当てる場合に選択します。

- 割り込み要求 (IRQ) …プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスが使う IRQ (割り込み要求) を設定します。「リソース設定」を「手動」に設定した場合に設定できます。**割り込み要求 x (IRQx)**: プラグアンドプレイに対応していない ISA デバイスに、各 IRQ を割り当てるかどうかを設定します。本装置では、ISA デバイスを使っていないので、設定を変更しないでください。

- ・ IRQ3 ~ 15: 使用しない

- パレット情報の参照…拡張 ISA ビデオカードのコントローラが、PCI ビデオカードのコントローラのパレット情報 (画面に表示する色の情報) を参照するかどうかを設定します。

- ・ **有効**: パレット情報を参照します。
- ・ **無効**: パレット情報を参照しません。

- VGA の割り込み要求…VGA コントローラが割り込み要求を使うかどうかを設定します。

- ・ **有効**: VGA コントローラが割り込み要求を使います。
- ・ **無効**: VGA コントローラが割り込み要求を使いません。

- USB の割り込み要求…USB コントローラが割り込み要求を使うかどうかを設定します。

- ・ **有効**: USB コントローラが割り込み要求を使います。
- ・ **無効**: USB コントローラが割り込み要求を使いません。

セキュリティメニュー

セキュリティメニューでは、特定の人だけが本パソコンを操作できるようにパスワードを設定します（▶ P.79）。

設定項目の詳細

■ セキュリティオプション

システム起動時、または BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求するかどうかを設定します。

- ・ **システム**：システム起動時と BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。
- ・ **セットアップ**：BIOS セットアップ起動時にパスワード入力を要求します。

POINT

- ▶ 本設定は、管理者用パスワードまたはユーザー用パスワードが設定されている場合のみ設定が可能です。

■ 管理者用パスワード

【Enter】 キーを押して、管理者用パスワードを設定、または変更します。

■ ユーザー用パスワード

【Enter】 キーを押して、ユーザー用パスワードを設定します。

POINT

- ▶ パスワードを設定すると、BIOS セットアップへのアクセス時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。このときに、誤ったパスワードを3回入力すると、「System Halted!!」と表示され、本パソコンはキーボードからの入力に反応しなくなります（ビープ音が鳴り続けます）。この場合、本パソコンの電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってから電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ 「ユーザー用パスワード」を設定して、さらに「管理者用パスワード」が設定されている場合、ユーザー権限で設定できる BIOS セットアップの項目が制限されます（ユーザー用パスワードのみ変更できます）。

■ CPU ファンエラー検出

自己診断（POST）時に、CPU ファンエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ **有効**：CPU ファンエラーを検出します。
- ・ **無効**：CPU ファンエラーを検出しません。

■ フロッピーディスク A エラー検出

フロッピーディスクドライブエラーを検出するかどうかを設定します。

- ・ **有効**：フロッピーディスクドライブエラーを検出します。
- ・ **無効**：フロッピーディスクドライブエラーを検出しません。

■ イベントログ設定

- イベントログ…イベントログ発生時にイベントログを記録するかどうか設定します。
 - ・ 有効：イベントログを記録します。
 - ・ 無効：イベントログを記録しません。
- イベントログの消去…再起動時にイベントログの内容を消去するか設定します。
 - ・ 有効：イベントログを次回再起動時に消去します。再起動すると設定値に「無効」になります。
 - ・ 無効：イベントログを消去しません。
- イベントログの表示…【Enter】キーを押すと、イベントログの詳細を表示します。

終了メニュー

終了メニューは、セットアップを終了するときに使います。

設定項目の詳細

■ 変更を保存して終了する（再起動）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

■ 変更を保存して終了する（電源 OFF）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存して終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を保存して BIOS セットアップを終了し、本パソコンの電源が自動的に切れます。

■ 変更を保存せずに終了する（再起動）

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「変更した内容を保存しないで終了しますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、変更した設定値を元に戻して BIOS セットアップを終了し、本パソコンを再起動します。

■ 標準設定値を読み込む

本項目にカーソルを合わせて【Enter】キーを押すと、「標準設定値を読み込みますか」というメッセージが表示されます。

【Y】キーを押して【Enter】キーを押すと、標準設定値が読み込まれます。

5 BIOS のパスワード機能を使う

ここでは、本パソコンのデータを守るためのパスワード機能について説明します。本パソコンは、他人による不正使用を防止するために、パスワードを設定できます。パスワードを設定すると、正しいパスワードを知っている人以外は本パソコンを使えなくなります。

パスワードの種類

本パソコンで設定できるパスワードは次の2つです。

入力するパスワードにより、本パソコン操作の権限が区別されます。

- 管理者用パスワード

特定の人だけが、BIOS セットアップを行えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

- ユーザー用パスワード

特定の人だけが、本パソコンを使えるようにするためのパスワードです。設定したパスワードを入力しないと、BIOS セットアップおよび OS が起動しないようにします。

なお、「管理者用パスワード」が同時に設定されている場合、BIOS セットアップでは、ユーザー用パスワードのみ変更できます。

パスワードを設定する

- 1 「ユーザー用パスワード」、または「管理者用パスワード」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

次のパスワード入力用のウィンドウが表示されます。

パスワードを入力してください:

- 2 8桁までのパスワードを入力します。

パスワードを変更する場合も、新しいパスワードを入力してください。

入力できる文字種はアルファベットと数字です。入力した文字は表示されず、代わりに*が表示されます。

- 3 パスワードを入力したら【Enter】キーを押します。

次のパスワード確認用のウィンドウが表示され、パスワードの再入力が必要です。

パスワードを確認してください:

4 手順2で入力したパスワードを再入力し、【Enter】キーを押します。

再入力したパスワードが間違っていた場合は、「パスワードを入力してください」の項目に戻ります。もう一度、手順2から入力してください。

5 セットアップを終了します。

POINT

- ▶ パスワードを設定した場合は、そのパスワードを書きとめて、安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

パスワード設定後のパソコンの起動

「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」を設定すると、OS 起動時と BIOS セットアップ起動時に、パスワードの入力ウィンドウが表示されます。

パスワードを入力してください:

管理者用パスワード、またはユーザー用パスワードを入力し、【Enter】キーを押してください。なお、ユーザー用パスワードを入力した場合は、設定を制限されるものがあります。

POINT

- ▶ 誤ったパスワードを3回入力すると、ビーブ音が鳴りシステムが停止します。その場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けて電源を切り、10秒以上待ってからもう一度電源を入れます。そのあと、正しいパスワードを入力してください。
- ▶ テンキーからの入力はできません。

パスワードを忘れてしまったら

管理者用パスワードを忘れると、起動や BIOS セットアップができなくなってしまいます。この場合は、修理（有償）が必要となりますので、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。

パスワードを変更する／削除する

パスワードを変更する

パスワードを変更するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力、確認します。

パスワードを削除する

パスワードを削除するには、「管理者用パスワード設定」または「ユーザー用パスワード設定」の項目で、新しいパスワードを入力しないで【Enter】キーを押します。

次のウィンドウが表示され、パスワードが削除されます。

パスワードを削除しました。
どれかキーを押してください。

6 BIOS が表示するメッセージ一覧

ここでは、本パソコンが表示するエラーメッセージの対処方法について説明します。必要に応じてお読みください。

メッセージが表示されたときは

「[メッセージ一覧](#)」(▶▶ P.82)に記載の処置や次の処置を行ってください。

- BIOS セットアップを実行する
BIOS セットアップに関するエラーメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップを再実行してください。
- 内蔵オプションの取り付けを確認する
オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込み要求など正しく設定されているかどうか確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルもあわせてご覧ください。
処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

メッセージ一覧

本パソコンが表示するメッセージの一覧は、次のとおりです。

- BIOS ROM checksum error - System halted.
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- CMOS CHECKSUM ERROR
【F2】キーを押して、BIOSセットアップを起動し、BISO設定を標準設定値に戻してください。それでも改善されない場合、バッテリーの交換が必要です。
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER
フロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出して、【Enter】を押してください。
- DISKETTE DRIVES OR TYPES MISMATCH ERROR - RUN SETUP
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- DISPLAY SWITCH IS SET INCORRECTLY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- DISPLAY TYPE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

- EISA Configuration Checksum Error
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- EISA Configuration Is Not Complete
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- ERROR ENCOUNTED INITIALIZING HARD DRIVE
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- ERROR INITIALIZING HARD DISK CONTROLLER
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、IDE ドライブの設定が正しく行われているかを確認してください。
- FLOPPY DISK CNTRLR ERROR OR NO CNTRLR PRESENT
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- FLOPPY DISK(S) fail (80)
FLOPPY DISK(S) fail (40)
フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されているときは、BIOS セットアップを起動して、フロッピーディスクドライブの種類が正しく設定されているかを確認してください。
- Hard Disk(s) fail (80)
Hard Disk(s) fail (40)
Hard Disk(s) fail (20)
Hard Disk(s) fail (10)
Hard Disk (s) fail (08)
【F2】 キーを押して、BIOS セットアップを起動し、パソコン本体の環境（システム構成）と BIOS セットアップの設定が正しいか、確認してください。
- Invalid EISA Configuration
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- KEYBOARD ERROR OR NO KEYBOARD PRESENT
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Keyboard is locked out - Unlock the key.
キーボードが正しく接続されているかを確認してください。
- Manufacturing POST loop.
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- Memory Address Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory parity Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- MEMORY SIZE HAS CHANGED SINCE LAST BOOT
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory test fail.
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- Memory Verify Error at...
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。

- **OFFENDING ADDRESS NOT FOUND**
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **OFFENDING SEGMENT:**
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **PRESS A KEY TO REBOOT**
キーボードのキーのどれかを押してください。本パソコンが再起動します。
- **PRESS F1 TO DISABLE NMI,F2 TO REBOOT**
【F1】キーを押して先に進めるか、または【F2】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **RAM PARITY ERROR - CHECKING FOR SEGMENT...**
メモリが正しく取り付けられているかを確認してください。
- **Should Be Empty But EISA Board Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **Should Have EISA Board But Not Found**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **Slot Not Empty**
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **SYSTEM HALTED, (CTRL-ALT-DEL) TO REBOOT...**
【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】キーを押して、本パソコンを再起動してください。
- **Wrong Board In Slot**
PLEASE RUN EISA CONFIGURATION UTILITY
弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。
- **PXE-E61:Media test failure, Check cable**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。LAN ケーブルが正しく接続されていません。LAN ケーブルを正しく接続してください。
- **PXE-E51:No DHCP or BOOTP offers received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。起動時に必要な IP アドレスが取得できませんでした。DHCP サーバを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-E53:No boot filename received**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-E78:Could not locate boot server**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバがクライアントから認識されていない場合に発生するエラーです。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。
- **PXE-T01:File not foundPXE-E89:Could not download boot image**
Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ブートサーバ上のブートイメージファイルが取得できませんでした。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。

- PXE-E32:TFTP open timeout

Preboot Execution Environment 実行時のエラーです。ネットワークブートに失敗しました。ブートサーバを正しく設定するか、BIOS セットアップの「起動デバイスの優先順位」で「LAN」を設定しないようにしてください。

Memo

第4章

困ったときに

4

本パソコンにトラブルが発生したときなど、どうすればいいのかを説明しています。必要に応じてお読みください。

- 1 こんなときには 88

1 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

■ アクセス表示ランプがつかない

本パソコンが故障している可能性があります。弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

■ 画面に何も表示されない

次のことを確認してください。

- ディスプレイの電源スイッチは入っていますか。
- 省電力モードが設定されていませんか。マウスを動かすか、どれかキーを押してください。電源ランプがオレンジ色になっている場合、ACPI モードの S3 に移行している可能性があります。電源スイッチを押してください。電源スイッチを押してから 30 秒以上たっても画面に何も表示されない場合、電源スイッチを 4 秒以上押し続け、電源を一度切ってください。
- ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか (▶ P.26)。
- ディスプレイの電源ケーブルは、アウトレットに接続されていますか (▶ P.25)。

⚠ 警告



- ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。

■ 画面が揺れる

近くにテレビなどの強い磁界が発生するものはありませんか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。

■ 画面の両サイドが欠ける

使用しているディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズの調整を行ってください。

■ フロッピーディスクの読み込み、書き込みができない

次のことを確認してください。

- フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください (▶ P.94)。
- フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。

■ 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない

電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。

■ パスワードを忘れてしまった

管理者用パスワードを忘れると、起動や BIOS セットアップができなくなってしまいます。この場合は、修理（有償）が必要となりますので、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。無償修理期間中でも有償となります。

■ CD-ROM ドライブから、データの読み込みができない

次のことを確認してください。

- CDが正しくセットされていますか。CDのレーベル面を左にして、セットし直してください。
- CDが表裏逆に入っていませんか。CDのレーベル面を左にして、正しくセットしてください。
- CDが汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。かわいた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
- CDに傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、CDを交換してください。
- 規格外のCDをお使いになっていませんか。規格に合ったCDをお使いください。

■ キーボードから入力した文字が表示されない

キーボードは正しく接続されていますか（▶ P.25）。

■ マウスカーソルが動かない

マウスは正しく接続されていますか（▶ P.25）。

■ SCSI カードを使用して SCSI 装置を接続したが、Windows98/2000 から認識できない

次のことを確認してください。

- SCSI カードのドライバはインストールされていますか。次の手順に従って確認してください。
 - Windows98 の場合
 - 1 「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」アイコンをダブルクリックします。
 - 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックして、SCSI コントローラが登録されているか確認します。
登録されていない場合、「コントロールパネル」ウィンドウの「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを行ってください。
 - Windows2000 の場合
 - 1 「コントロールパネル」ウィンドウの「システム」アイコンをダブルクリックします。
 - 2 「ハードウェア」タブをクリックします。
 - 3 「デバイスマネージャ」をクリックし、SCSI コントローラが登録されているか確認します。
登録されていない場合、手順2の「ハードウェア」タブの「ハードウェアウィザード」をクリックし、SCSI カードの検出とドライバのインストールを行ってください。
- SCSI 装置の電源は、パソコン本体の電源を入れる前に入れましたか。パソコン本体の電源より先に SCSI 装置の電源が入っていないと、正しく認識されません。

■ ネットワークに接続できない

次のことを確認してください。

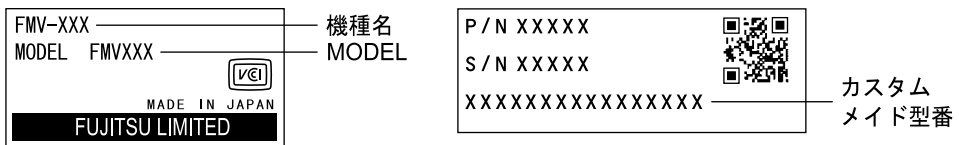
- ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。
- 100Mbps で通信している場合、カテゴリ 5 の UTP ケーブルをお使いですか。
- ハブユニットの ACT/LNK ランプが点灯していますか。
- LAN の診断機能 (TCP/IP プロトコルをお使いの場合は、Ping コマンド) を使って接続できているか確認してください。

それでも解決できないときは

下記の連絡先にお問い合わせください。なお、お問い合わせ前に機種名 / MODEL / カスタムメイド型番を確認してください。

機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所

パソコン本体に貼られたラベルに記載されています。



連絡先

こんなときには	こちらへ
添付品の不備	ご購入元
故障かなと思われたとき	弊社パーソナルエコーセンター※またはご購入元
FM シリーズの技術的なご質問・ご相談	FM インフォメーションサービス※
本パソコンにインストールされているソフトウェアのお問い合わせ	『ソフトウェアガイド』参照

※：パーソナルエコーセンターと FM インフォメーションサービスの連絡先は、添付の『修理サービス網一覧表』をご覧ください。

情報サービス

また、次の方法で情報サービスを行っております。

富士通パソコン FAX サービス (カタログ、Q&A 情報)	043-299-3642 (千葉) 06-6949-3270 (大阪)
インターネット (製品の技術情報、Q&A 情報)	富士通パソコンホームページ FM WORLD http://www.fmworld.net/
FM シリーズの音声による Q&A 情報	FM インフォメーションテレホンガイド 0120-89-2235

第 5 章

技術情報

本パソコンの仕様などを記載しています。

1	ハードウェアのお手入れ	92
2	テレビ／ラジオなどの受信障害防止について	95
3	筐体のセキュリティ	96
4	LAN 機能の診断テスト	97
5	標準仕様	98
6	その他の注意事項	103

1 ハードウェアのお手入れ

パソコン本体のお手入れ

警告



- お手入れをする場合は、パソコン本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。

- 柔らかい布で、から拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、パソコン本体に水が入らないようにご注意ください。
- 中性洗剤以外の洗剤や溶剤などをお使いにならないでください。パソコン本体を損傷する原因となります。
- 通風孔にほこりがたまらないよう、掃除機などでほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

キーボードのお手入れ

柔らかい布で、から拭きします。

CDのお手入れ

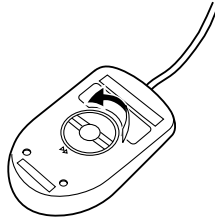
柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布で、から拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

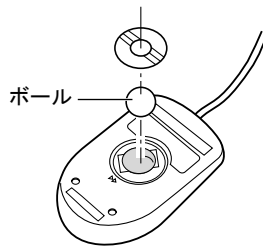
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



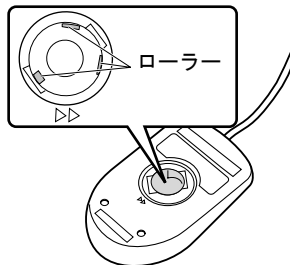
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



4 ボール、裏ボタンを取り付けます。

ボールとマウスの内部を十分乾燥させたら、ボールと裏ボタンを取り付けます。

フロッピーディスクドライブのお手入れ

フロッピーディスクドライブは、長い間使っていると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サプライ品）のクリーニングフロッピーで、3ヶ月に1回程度クリーニングしてください。

- サプライ品

クリーニングフロッピーマイクロ

商品番号：0212116

（富士通コワーコ取り扱い品：☎03-3342-5375）

クリーニング方法は、OSによって異なります。

Windows98 モデルの場合

- 1 「スタート」ボタン→「ファイル名を指定して実行」の順にクリックします。
- 2 「名前」に次のように入力し、【Enter】キーを押します。
c:¥fjuty¥c\ndsk 0
- 3 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットし、【Enter】キーを押します。
ヘッドクリーニングが始まり、「クリーニング中です。あと XX 秒」と表示されます。「ヘッドクリーニングが終了しました。」とメッセージが表示されたら終了です。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えているのを確認し、クリーニングフロッピーを取り出します。

WindowsNT/2000/Me モデルの場合

クリーニングフロッピーをフロッピーディスクドライブにセットします。

コマンドプロンプト（WindowsNT/2000）またはMS-DOSプロンプト（Windows Me）から、dirなどのディスクにアクセスするコマンドを実行します。

例 次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

2 テレビ／ラジオなどの受信障害防止について

本パソコンは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本パソコンの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じて、本パソコンの故障ではありません。テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、次のような点にご注意ください。

本パソコン側での留意点

- 本パソコンのカバーを外した状態で、お使いにならないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使い、それ以外のケーブルは使わないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本パソコンの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオ側での留意点

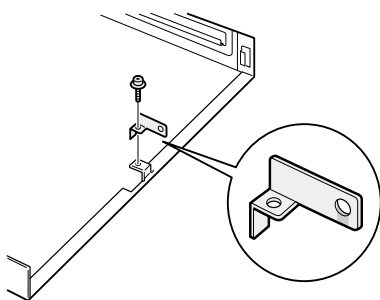
- テレビやラジオなどを、本パソコンから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートを本パソコンから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルをお使いください。

本パソコンや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本パソコンや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。それでも改善されない場合は、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にご連絡ください。

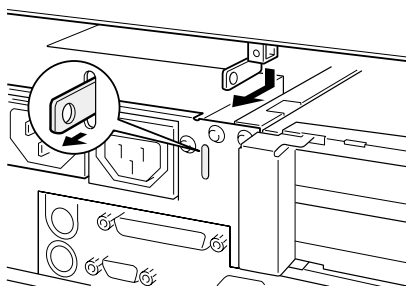
3 筐体のセキュリティ

パソコン内部の装置（ハードディスクやCPUなど）を盗難から守るため、本パソコンのカバーに施錠できます。

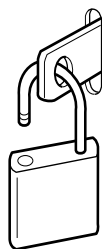
- 1 アッパーカバーを取り外します。
- 2 添付のセキュリティキー取り付け金具を、アッパーカバーの裏に取り付けます。
ネジ（1ヶ所）で固定します。



- 3 アッパーカバーを取り付けます。
本体背面のスリットに、セキュリティキー取り付け金具を通します。



- 4 セキュリティキー取り付け金具にお手持ちの鍵を取り付けます。



4 LAN 機能の診断テスト

LAN 機能の診断テストを行うと、LAN 機能や LAN ケーブルの配線、さらにネットワーク接続に問題がないかどうかを調べることができます。ネットワーク環境をお使いになる前に、診断テストの実施をお勧めします。

LAN 機能テスト

TCP/IP プロトコルをお使いになる場合、Ping コマンドを使ってテストを行ってください。

5 標準仕様

本体仕様

	FMV-6633CL6s	
CPU	Celeron™ Processor-633MHz	
2次キャッシュ	128KB (内部)	
BIOS ROM	512KB (FLASH ROM)	
メインメモリ※1	標準 64MB (168ピン SDRAM DIMM) 最大 512MB (ECC 非対応)	
フロッピーディスク	3.5インチ×1	
ハードディスク	標準 20.4GB※2	
CD-ROM	最大 24倍速スリムタイプ (CD-ROM 搭載モデルの場合)	
グラフィック	最大 1280×1024ドット/最大 1677万色※3	
VRAM	8MB (メインメモリと共用)	
ネットワーク	100BASE-TX/10BASE-T、Wake up on LAN 対応	
I/F	ディスプレイ	ミニ D-SUB 15pin (アナログ RGB)
	USB	2ポート (4ピン) SeriesA
	キーボード	PS/2タイプ Mini DIN 6pin
	マウス	PS/2タイプ Mini DIN 6pin
	シリアルポート	非同期 RS-232C ×1 D-SUB 9pin
	パラレルポート	セントロニクス準拠 D-SUB 25pin
	LAN	モジュラーコネクタ RJ45
	Audio	背面：ライン出力、ライン入力、マイク入力
拡張スロット数	2 (PCI Rev 2.2 準拠) PCI1 (上段) 最大 120mm PCI2 (下段) カスタムメイドオプション専用	
ストレージベイ数	3 3.5インチハードディスクドライブ搭載済 CD-ROM ドライブ (CD-ROM 搭載モデル) 3.5インチフロッピーディスクドライブ搭載済	
電源/周波数	AC100V 50/60Hz	
消費電力	最大 75W	
重量	約 6.5kg	
外形寸法 (縦置き時)	80mm × 325mm × 305mm (W × D × H) (フット、突起部は除く)	
使用環境	温度 10～35℃ 湿度 20～80% (RH)	

※1：VRAM 領域として 8MB を共用。

※2：本書に記載のディスク容量は、1MB=1000²byte、1GB=1000³byte 換算によるものです。1MB=1024²byte、1GB=1024³byte 換算で Windows 上に表示される実際の容量は、本書に記載のディスク容量より少なくなります。

※3：1280 × 1024 ドットでは最大 High Color (65535 色) までサポートしています。

POINT

- ▶ 本パソコンの仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。あらかじめ、ご了承ください。

LAN アダプタ仕様

LAN コントローラ	Realtek 社製 RTL8139C
外部インターフェース	ISO8802-3 100BASE-TX/10BASE-T
伝送媒体	ツイストペアケーブル※1 (100Mbps : カテゴリ 5、10Mbps : カテゴリ 3 ~ 5)
伝送方式	ベースバンド
アクセス方式	CSMA/CD
データ転送速度	100Mbps、10Mbps
配線形態	スター型
セグメント最大長	100m
最大ノード数/セグメント	ハブユニット※2 による

※1 : ネットワークを 100Mbps で確実に動作させるには、非シールド・ツイスト・ペア (UTP) カテゴリ 5 またはそれ以上のデータ・グレードのケーブルをお使いください。カテゴリ 3 のケーブルを使うと、データ紛失が発生します。

※2 : ハブユニットとは、100BASE-TX/10BASE-T のコンセントレータです。

POINT

- ▶ 本パソコン標準搭載の LAN はネットワークのスピードに自動で対応します。
ハブユニットの変更などでネットワークのスピードが変更される場合、スピードに対応した適切なデータグレードのケーブルを必ずお使いください。

サウンド仕様

サウンドコントローラ	VIA 社製 VT82C 686A + Cirrus Logic 社製 CS4299
サンプリングレート	5 ~ 48kHz

※ : DirectX7.0a 以降に対応しています。

グラフィック仕様

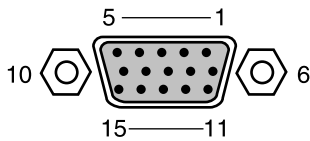
ビデオコントローラ	VIA 社製 ProSavage(TM) PL133 に内蔵
表示モード	最大 1280 × 1024
ビデオ出力信号	ビデオ : アナログ RGB、同期信号 : TTL コンパチブル
ビデオメモリ	8MB (メインメモリと共用)

※ : DirectX7.0a 以降に対応しています。

コネクタ仕様

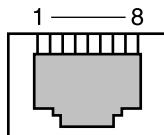
各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

CRT コネクタ



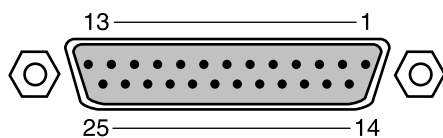
ピン番号	信号名	方向	説明
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	—	未接続
5～8	GND	—	グラウンド
9	+5V	—	+5V
10	GND	—	グラウンド
11	NC	—	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

LAN コネクタ (100BASE-TX/10BASE-T)



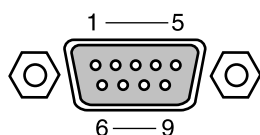
ピン番号	信号名	方向	説明
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	—	未接続
5	NC	—	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	—	未接続
8	NC	—	未接続

パラレルコネクタ



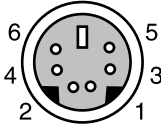
ピン番号	信号名	方向	説明
1	STROBE	入出力	ストロープ
2	DATA 0	入出力	データ 0
3	DATA 1	入出力	データ 1
4	DATA 2	入出力	データ 2
5	DATA 3	入出力	データ 3
6	DATA 4	入出力	データ 4
7	DATA 5	入出力	データ 5
8	DATA 6	入出力	データ 6
9	DATA 7	入出力	データ 7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	—	グラウンド

シリアルコネクタ



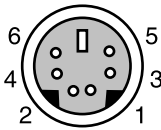
ピン番号	信号名	方向	説明
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	—	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

マウスコネクタ



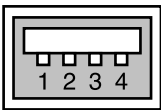
ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

キーボードコネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	DATA	入出力	データ
2	NC	—	未接続
3	GND	—	グラウンド
4	VCC	—	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	—	未接続

USB コネクタ



ピン番号	信号名	方向	説明
1	VCC	—	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	-データ信号
3	+DATA	入出力	+データ信号
4	GND	—	ケーブル・グラウンド

6 その他の注意事項

廃棄について

液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイ内の蛍光管の中には水銀が含まれています。パソコンの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

電池の廃棄について

本パソコンは電池を使用しており、火中に投げると破裂の恐れがあります。古い電池の廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

マニフェスト伝票の発行義務について

本製品の所有者が事業主の場合には、本製品を廃棄する際にマニフェスト伝票（廃棄物管理票）の発行が義務付けられています。弊社では、富士通りサイクルシステムを構築し全国的に運用しておりますので、廃棄の際には（株）富士通ロジスティックス（電話番号：045-470-5305）へお問い合わせください。

なお、本製品の所有者が個人の場合にはマニフェスト伝票の発行義務はありません。廃棄方法につきましては、地方自治体の廃棄処理に関連する条例または規則に従ってください。

USB について（Windows98/2000/Me モデル）

USB とは、ユニバーサル・シリアル・バス（Universal Serial Bus）と呼ばれる、マウス、キーボード、プリンタ、モデム、スピーカーなどのインターフェースを共通化するための規格です。

POINT

- ▶ USB 対応周辺装置によっては、専用のデバイスドライバのインストールが必要になる場合があります。
- ▶ USB をサポートしている OS は、Windows98/2000/Me です。USB 機器をお使いになる場合は、各 OS に対応しているか確認してください。
- ▶ USB 機器を接続している場合、接続している USB 機器の種類によっては Windows を正常に終了できないことがあります。その場合は、USB 機器を取り外してから Windows を終了してください。
- ▶ PS/2 マウスポートを USB キーボード本体に持つ場合でも、マウスはパソコン本体背面に接続してください。
- ▶ USB に関する最新情報については、下記のオンライン情報サービスで情報を提供する予定です。
 - FM WORLD : <http://www.fmworld.net/>

USB キーボード (Windows98 モデル)

「コントロールパネル」－「ユーザー補助」－「フィルターキー機能」－「設定」で「ショートカットキーを使う」を有効にした場合、「右 shift」キーを 8 秒以上押し続けてもショートカットキーの機能が働かず、「フィルターキー機能を使う」の設定が行われません。マウス操作で「フィルターキー機能を使う」のチェックボックスを設定してください。

LAN アダプタの追加について

本パソコンをクライアントとして運用し、LAN アダプタを追加した場合、標準搭載の LAN 機能と同時にお使いになれません。

Wake up On LAN

BIOS セットアップの「省電力」－「自動ウェイクアップ」－「LAN によるウェイクアップ」を「使用する」に設定すると、LAN を経由して本パソコンの電源を入れることができます (WOL : Wake up On LAN)。本機能をお使いになる場合は、電源ケーブルを接続したあとや停電のあとは、必ず一度本パソコンの電源を入れてください。電源ケーブルを接続しただけでは、本機能が正常に動作しない場合があります。

ディスプレイをお使いになるうえでの注意

- お使いのディスプレイや解像度などの設定によっては、CAD 系アプリケーションなどで縦線と横線の太さが異なって見えることがあります。設定を調整してお使いください。
- Windows の起動および終了画面、省電力機能からの復帰時など、画面表示の開始や表示モードの切り替わりのときに、一時的に画面が乱れたり、横線が見える場合がありますが、故障ではありません。
- 一部の液晶ディスプレイで画面が 2、3 重に重なって見えることがあります。その場合、リフレッシュレートを 60Hz に設定してください。

アナログディスプレイをお使いになるうえでの注意 (Windows2000 モデル)

アナログディスプレイをお使いになる場合、ディスプレイによってはモニタを自動で検出しないことがあります。故障ではありませんので、そのままお使いください。

アナログディスプレイでの画面位置の調整

アナログディスプレイをお使いになるとき、640 × 480 (60Hz) の Windows 画面上で画面位置調整をディスプレイ側で行うと、BIOS セットアップ画面、また MS-DOS 画面の表示位置がずれることがあります。その場合、それぞれの画面で位置を合わせてください。

画面の解像度の選択

画面のプロパティで、1152 × 864 の解像度を選択しないでください。

ディスプレイの省電力対応

Windows98/Me モデルの場合

省電力に対応していないディスプレイをお使いになる場合、「電源の管理のプロパティ」ダイアログボックスで、「システムスタンバイ」と「モニタの電源を切る」を、両方とも「なし」に設定してください。

WindowsNT モデルの場合

省電力に対応していないディスプレイをお使いになる場合、BIOS セットアップの「詳細」－「省電力設定」－「省電力モード」－「ディスプレイ省電力」を「使用しない」に設定してください。

Windows2000 モデルの場合

省電力に対応していないディスプレイをお使いになる場合、「電源オプションのプロパティ」ダイアログボックスで、「システムスタンバイ」と「モニタの電源を切る」を、両方とも「なし」に設定してください。

ディスプレイの接続

ディスプレイ接続時に画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイにあった周波数が設定されているか確認してください。それでも画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整を行ってください。

ディスプレイの交換

仕様の異なるディスプレイ（特に液晶ディスプレイ）に交換する場合、画面が表示されないなどの表示異常が発生する場合があります。その場合、次の手順でディスプレイを交換してください。

Windows98/Me モデルの場合

- 1** 解像度を 640 × 480 に設定します（ディスプレイ交換前）。
- 2** リフレッシュレートを「アダプタの既定値」または「アダプタの標準」に設定します。
- 3** Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切り、ディスプレイを交換します。

上記設定を行わずにディスプレイを交換して、画面が表示されない、または表示できない解像度がある場合、次の手順でディスプレイドライバを再インストールしてください。

- 1** Windows を Safe モードで起動します。
- 2** グラフィックアダプタを「標準ディスプレイアダプタ (VGA)」または「標準VGA」に設定して、再起動します。
- 3** ディスプレイドライバを再インストールします。

WindowsNT モデルの場合

- 1** パソコンの電源を切り、ディスプレイを交換します。
- 2** Windows NT Workstation Version4.00 [VGA mode] で起動します。
- 3** ディスプレイの仕様に合わせて解像度、色数、リフレッシュレートを設定し、再起動します。

Windows2000 モデルの場合

- 1 解像度を 640 × 480 にします。
- 2 リフレッシュレートを 60Hz に設定します。
- 3 Windowsを終了させてパソコン本体の電源を切り、ディスプレイを交換します。

上記設定を行わずにディスプレイを交換して、画面が表示されない、または表示できない解像度がある場合、次の手順でディスプレイドライバを再インストールしてください。

- 1 Windows を「VGA モードを有効にする」で起動します。
- 2 ディスプレイドライバを再インストールします。

省電力機能

動画の再生中や音楽の録音、再生中に省電力機能が働くと、アプリケーションの動作が不安定になります。この場合、省電力機能を無効にしてください。

国際エネルギースタープログラムについて

本製品は、Windows98/2000/Me モデルにおいて、国際エネルギースタープログラムに適合しています。

スクロール機能（ホイール機能）付きマウス

スクロール機能付きマウス（PS/2）は、必ず本体に接続してください。

USB キーボードとスクロール機能付きマウス（PS/2）を同時にお使いになる場合、Windows98 の Safe モードで、マウスが動作しなくなる可能性があります。

この場合、USB キーボードをパソコン本体から抜き、クリックなどのマウス操作をしてから、USB キーボードを再度接続してください（スクロール機能は Windows98 の Safe モードでお使いになれません）。

Memo

索引

記号

100BASE-TX/10BASE-T	100
109 日本語キーボード	16

A

ACPI 設定	72
AC 通電再開時の動作	73
APM による省電力管理	72

B

BIOS

ー設定	68
ーセットアップ	60
ーセットアップの各キーの役割	62
ーセットアップの操作のしかた	61

C

CD

ーのお手入れ	92
ーのセット	37
ーの取り出し	38

CD-ROM ドライブ	36, 89, 107
CMOS RAM	60
CRT コネクタ	100

D

DMA チャンネル	71
-----------	----

E

EPP タイプ	71
---------	----

I

IDE セカンダリ	65
ーコントローラ	69
IDE プライマリ	65
ーコントローラ	69
IRQ アクティブ検出	75

L

LAN

ー機能の診断テスト	97
ーケーブルの接続	25
ーコネクタ	100
ーコントローラ	70
ー仕様	99
ーによるウェイクアップ	74

M

MODEL	90
-------	----

P

PnP/PCI 設定	76
------------	----

S

SCSI	89
------	----

U

USB	103
ーキーボード	70, 104
ーコネクタ	102
ーコントローラ	70
ーマウス	70

W

Wake up On LAN	104
----------------	-----

あ行

アクセス	
ーモード	66
アクセス表示ランプ	88
アダプタプラグ	28
アッパーカバーの取り外し	47
イベントログ	78
ー設定	78
ーの消去	78
ーの表示	78

ウイルス検出時の警告	68
ウェイクアップ	
-時刻(時)	75
-時刻(分)	75
-日付	75
エラー	
-メッセージが表示されたときは	82
-を無視するデバイス	67
か行	
各キーの役割	62
拡張カード	54
-の取り付け	55
拡張メモリ容量	67
カスタムメイド型番	90
画面	
-が揺れる	88
-に何も表示されない	88
-の両サイドが欠ける	88
仮書き込みシリンダ	66
管理者用パスワード	77, 79
キーボード	16
-コネクタ	102
-のお手入れ	92
-の接続	25
機種名	90
起動	
-デバイスの優先順位	69
起動時	
-の NumLock 設定	69
クリック	18
高速起動	68
コネクタ仕様	100
さ行	
最大容量	66
サウンド	
-仕様	99
サウンドコントローラ	70
時刻によるウェイクアップ	75
システム	
-時刻	65
-日付	65
-メモリ容量	67
周辺機器	44
受信障害防止	95

仕様	98
詳細メニュー	68
省電力	
-機能	107
-設定	71
-モード	71
情報サービス	90
終了メニュー	78
シリアルコネクタ	101
シリアルポート	71
シリンダ数	66
スクロール	19
-機能	107
スタンバイ	71
-移行時間	72
セキュリティ	96
-メニュー	77
セクタ数	66
接続	24
設置	20
全メモリ容量	67
た行	
ダブルクリック	19
チップセット設定	69
通風孔	92
ディスプレイ	104
-省電力	72
-の交換	106
-の省電力対応	105
-の省電力方法	73
-の接続	25, 105
電源	
-が入らない	88
-ケーブルの接続	27
-スイッチ	73
-の入れかた	29
-の切りかた	31
-ランプ	88
ドラッグ	19
トラブル情報	88
な行	
内蔵デバイス設定	69

は行

ハードディスク	41
- 省電力	72
- の S.M.A.R.T.	69
- の自動検出	65
パスワード	60
- の設定方法	79
- を削除する	81
- を変更する	81
パソコン本体のお手入れ	92
パラレル	
- コネクタ	101
- ポート	71
パレット情報の参照	76
ビデオモード	67
プライマリディスプレイ	71
プラグアンドプレイ対応 OS	76
フロッピーディスク	39, 88
- A	67
- コントローラ	71
- ドライブのお手入れ	94
- のセット	39
- の取り出し	40
ヘッド数	66
ヘッドの退避シリンダ	66
変更を保存	
- して終了する (再起動)	78
- して終了 (電源 OFF)	78
- せずに終了 (再起動)	78
ホイール機能	107
ポイント	19

ま行

マウス	18, 107
- コネクタ	102
- のお手入れ	93
- の接続	25
- の使いかた	18
マザーボード	15
名称と働き	10
メインメニュー	65
メッセージ	60, 82

メモリ	48
- の取り付け	50
- の取り外し	52
- 容量検出のための OS 選択	69
モデム	
- 着信によるウェイクアップ	74
- の IRQ	73

や行

ユーザー用パスワード	77, 79
------------	--------

ら行

リセット	34
リソース	
- 設定	76
- (ESCD) の初期化	76
連絡先	90

わ行

割り込み要求 (IRQ)	76
--------------	----

Memo

保証について

- 保証書は必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。
- 保証期間内に正常な使用状態において万一故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは、無理な使用による故障の場合は有料となりますので、ご注意ください（詳しくは保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときは、必ず保証書をご用意ください。
- 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の最低保有期間は、製造終了後6年間です。

保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、以下の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びの上、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元にお申し込みください。

■ 契約サービス

お客様と契約に基づき、機器管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

- 定期保守サービス
トラブルを未然に防止するとともに、機器の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。業務にご利用の場合などで、機器の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。
- 定額訪問修理サービス
万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。
- 定額点検サービス
トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。
点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

■ スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

- スポット訪問修理サービス
お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。
修理料金はその都度ご清算いただけます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。
- スポット持込修理サービス
弊社パーソナルサービスセンター、またはご購入元にお持ち込みいただき、修理完了後に、お客様にお引き取りいただけます。経済的な費用で修理できます。
- スポット引取修理サービス
お客様のご依頼により、弊社指定の運送業者がお客様をご訪問させていただき、機器を回収いたします。修理完了後に、お客様までご返送させていただくサービスです。
なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、往復の運送に必要な費用は別途有償となります。
- スポット点検サービス
お客様のご依頼により、保守員がお客様を訪問させていただき、機器を整備・点検します。
機器の長期間の使用や移設作業後に点検を行いたい場合などにご利用いただけます。なお、点検時に部品交換などが必要と判断された場合は別途有償とさせていただきます。
*アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、弊社パーソナルエコーセンター、またはご購入元へお問い合わせください。

FMV-6633CL6s

ハードウェアガイド
B5FH-1601-01-00

発行日 2000年10月

発行責任 富士通株式会社

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。